

身の回りの製品に含まれる
化学物質シリーズ

化粧品



はじめに	1	2-2-1. 口紅	11
(I) 化粧品について	2	2-2-2. アイメイクアップ	11
1. 化粧品と薬用化粧品	3	2-2-3. 頬紅	11
2. 化粧品	4	2-2-4. ネイルエナメル	12
3. 本冊子が対象とする製品	4	3. ヘアケア化粧品	12
(II) 化粧品の種類	6	3-1. 洗髪用化粧品	12
1. スキンケア化粧品	7	3-1-1. シャンプー	12
1-1. 洗浄用化粧品	7	3-1-2. ヘアリンス	12
1-1-1. 洗顔料	7	3-1-3. ヘアトリートメント	13
1-1-2. メイク落とし	8	3-2. 整髪剤	13
1-2. 整肌用化粧品	8	3-3. パーマネント・ウェーブ用剤	14
1-2-1. 化粧水	8	3-4. 染毛剤、脱色剤	14
1-2-2. 美容液	8	3-4-1. ヘアカラー（永久染毛剤）	14
1-2-3. パック	8	3-4-2. 脱色剤（脱染剤）	15
1-3. 保護用化粧品	9	3-4-3. 半永久染毛料	15
1-3-1. 保護用乳液	9	3-5. 育毛剤	15
1-3-2. 保護用クリーム	9	4. ボディケア化粧品	16
1-4. 美白化粧品	9	4-1. 身体洗浄用化粧品	16
1-5. 紫外線防止化粧品	9	4-1-1. 浴用石けん	16
2. メイクアップ化粧品	10	4-1-2. ボディシャンプー	16
2-1. ベースメイクアップ化粧品	10	4-1-3. ハンドソープ	16
2-1-1. ファンデーション	10	4-2. デオドラント化粧品	16
2-1-2. 白粉（おしろい）	10	4-3. 浴用剤	17
2-1-3. 化粧下地	10	5. 歯磨き剤	17
2-2. ポイントメイクアップ化粧品	11	6. フレグランス化粧品	17
		6-1. 香水	17
		6-2. オーデコロン	17
		7. 種類別製品分類表	18

(III) 化粧品の構成成分 22

1. 油性成分	23
2. 界面活性剤	23
3. 保湿成分	23
4. 高分子物質	24
5. 増粘剤	25
6. 溶剤	25
7. 色材	25
7-1. 有機合成色素	25
7-2. 天然色素	25
7-3. 無機顔料	25
7-4. パール剤	25
8. 香料	26
9. 紫外線防止剤	26
10. 抗菌剤	26
11. 酸化防止剤	27
12. キレート剤	27
13. pH調整剤	27
14. 酸化剤	27
15. 還元剤	27
16. 浸透剤	27
17. 有効成分	28
17-1. 美白剤	28
17-2. 育毛剤	28
17-3. 肌荒れ防止剤	28
17-4. しわ防止剤	28
17-5. にきび用化粧品	28

17-6. ふけ・かゆみ用剤	29
----------------------	----

17-7. 腋臭防止剤	29
-------------------	----

17-8. 収れん剤	29
------------------	----

17-9. その他の有効成分	29
----------------------	----

18. 構成成分情報表	30
-------------------	----

19. より詳しい情報の入手先	48
-----------------------	----

Column 1

パッチテスト.....	49
-------------	----

Column 2

顔料と染料は、どう違うのですか？	49
-----------------------	----

(IV) 化粧品に関連する法規制等 50

1. 法規制	51
--------------	----

1-1. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）.....	51
--	----

1-2. 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）.....	53
--------------------------------------	----

2. 工業会等の自主基準	53
--------------------	----

2-1. 医薬部外品の成分表示に係る日本化粧品工業連合会の自主基準	53
--	----

Column 3

紫外線とその防止効果（SPF及びPA）について.....	54
------------------------------	----

出典.....	55
---------	----

索引.....	56
---------	----

はじめに

私たちの身の回りにはいろいろな製品がありますが、それらは全て化学物質で構成されています。本シリーズは、そのような身の回りの製品に含まれる化学物質についてまとめたものです。

この冊子を通じて、家庭用製品に含まれる化学物質について正しく理解し、また様々な情報を共有することによって、製品を適切に使用し、より便利で快適な生活を送っていただければ、と考えています。

さらに、消費者行政や事業者の相談窓口におかれましては、業務の参考としてご活用いただけますと幸いです。

なお、ここで紹介した化学物質情報は、書籍やホームページなどの公開情報を元に、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）が代表的な成分についてまとめたものであり、個別の製品の成分について詳説したものではありません。あらかじめご了承ください。

化粧品について

(I) 化粧品について

1. 化粧品と薬用化粧品※

「化粧品」は、使い方が同じでも「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）」によって「化粧品」と「薬用化粧品」に分類されます。「化粧品」は肌の保湿や、清浄など、製品全体としてその効果が期待されています。一方、「薬用化粧品」は化粧品としての期待効果に加えて、肌あれ・にきびを防ぐ、美白、デオドラントなどの効果を持つ「有効成分」が配合され、化粧品と医薬品の間に位置する「医薬部外品」に位置づけられています。「医薬部外品」には、「薬用化粧品」の他に、染毛剤、パーマネント・ウェーブ用剤、浴用剤、口中清涼剤や腋臭防止剤、あせもなどを防ぐてんか粉、育毛剤、除毛剤などがあります。

このように「化粧品」と「薬用化粧品」の大きな違いは「有効成分」が配合されているか、いないかということです。「薬用化粧品」の場合、容器や外箱に「医薬部外品」と表示されています。また、「化粧品」は薬機法で全成分表示が義務づけられていますが、「医薬部外品」は日本化粧品工業連合会など業界団体の自主基準で成分表示をしているという違いもあります。

※※「医薬部外品」は、薬機法上では、いわば「医薬品」と「化粧品」の間に位置するもので、「医薬品」と比べてその作用が穏やかなものです。薬機法が改正され、これまで「医薬品」に分類されていた、尿素クリームなどが「医薬部外品」に分類され、「新指定医薬部外品」と呼ばれています。

薬機法の分類では下記の4つのカテゴリーがあります。

医薬品	病気の診断、予防、治療に用いられるもの。医療用医薬品(処方箋による指示が必要なものとそれ以外)と一般の人が自らの判断で 사용할ことができる一般用医薬品に分けられている。
医薬部外品	人体に対する作用が緩和なもので医療機器でないもの。厚生労働大臣の指定するもの。育毛剤、染毛剤、薬用化粧品等の他、薬機法改正によりこれまで医薬品に分類されていたビタミン剤や尿素クリーム等が加わった。
化粧品	人体に対する作用が緩和なもので、皮膚、髪、爪の手入れや保護、着色、賦香を目的として用いられるもの。
医療機器	病気の診断、予防、治療に用いられる機械機器。MRIやペースメーカーからメスやピンセット、コンタクトレンズなど幅広い製品があり、リスクにより分類されている。

※日本化粧品工業連合会ホームページ：<https://www.jcia.org/user/public/knowledge/glossary/cosmeceuticals> を参照

2. 化粧品

化粧品は、薬機法では「人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、または皮膚若しくは毛髪を健やかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされている物で、人体に対する作用が緩和なものをいう」と定義されています。

化粧品は、その目的等により、スキンケア化粧品、メイクアップ化粧品、ヘアケア化粧品、歯磨きなどの種類があり、身体で使用の対象となるのは顔、毛髪、体幹、爪等です。

経済産業省の生産動態統計調査では、化粧品は「香水・オーデコロン」「頭髪用化粧品」「皮膚用途化粧品」「仕上用化粧品」「特殊用途化粧品」の5つのカテゴリーに分類されています。

3. 本冊子が対象とする製品

この冊子の対象製品は、以下のとおりとします。

- ① 化粧品
- ② 医薬部外品のうち薬用化粧品（※）、腋臭防止剤、育毛剤（養毛剤）、てんか粉類及び除毛剤

※薬用化粧品とは、「医薬部外品を指定する告示の一部改正について」（昭和36年11月18日付け薬発第470号厚生省薬務局長通知）の1の（3）にいう「いわゆる薬用化粧品」を指し、薬機法第2条第2項に規定する医薬部外品に該当するものです。

化粧品の種類

化粧品の種類

(II) 化粧品の種類

化粧品の範疇に含まれる製品群は多岐にわたり、また非常に多数の商品が実際に市販されています。その製品の用途・機能と成分の関係について、以下に簡単に説明します。

1. スキンケア化粧品

皮膚はからだのもっとも外層にあって全身を覆い、外からのさまざまな刺激からからだを守っています。しかし、加齢や紫外線、精神状態などの影響で、変化し、ダメージを受けることがあります。そこで、不足しているものを補い、不要なものを除去して皮膚を健康に保ち、ダメージを予防するためにスキンケア化粧品が用いられます。

皮膚、とくに顔の皮膚に用いるスキンケア化粧品は、洗浄用化粧品、整肌用化粧品、保護用化粧品に分類できます。



1-1. 洗浄用化粧品

皮膚を洗浄するためのもので、洗浄の対象により洗顔料とメイク落としの二つに分けられます。

1-1-1. 洗顔料

ほこりや汗などの水性の汚れを落とし、皮膚を清潔にする化粧品です。洗顔時に目にしめない、洗顔後はつっぱらずにすべすべした肌になるように工夫されています。洗顔用石けん（化粧石けん）と洗顔フォーム（洗顔クリーム）があります。洗顔フォームは過剰な皮脂や汚れを落とすことを目的としており、高起泡性界面活性剤が主成分です。表皮のくすみを落とすことなどを目的に粉体高分子等の角層剥離作用をもつ物質（スクラブ剤^(注)）を配合したものもあります。

^(注) スクラブ (scrub) とは「こすり落とす」という意味です。

1-1-2. メーク落とし

メイクアップ化粧品を落とすための洗浄用化粧品です。皮膚表面に付着しているメイクアップ化粧品などを溶かし込んで、皮膚から浮き上がらせる油分を多く含む洗顔料で、クレンジング（あるいはクレンジングクリーム）とも呼ばれることもあります。

1-2. 整肌用化粧品

皮膚に水分や保湿成分を補給し、皮膚をみずみずしく保つもので、化粧水や美容液、パックなどがあります。

1-2-1. 化粧水

皮膚に水分や保湿成分を補給し、保湿効果を高め、皮膚のモイスターバランスを保つ働きをします。通常透明か半透明の液状で、使用目的により以下のように分けられます。

柔軟化粧水はうるおいを与え、皮膚を柔らかくするために角層への水分補給とその保持を目的とします。

収れん化粧品は皮脂や汗の分泌を抑え、皮膚をひきしめ、さっぱりとした使用感を与えます。

ふきとり化粧水はクレンジングクリームやマッサージクリームなどを使用してティッシュで拭いた後、皮膚に残った油分をコットンに含ませ拭き取る清浄用に用います。

1-2-2. 美容液

美容液は化粧水と異なって粘度が高く、保湿機能と共にクリームや乳液のようなエモリエント（柔軟）機能を合わせ持っています。エッセンスとも呼ばれます。昨今ではしっとりとした感触を与え、肌荒れを防ぐ保湿用タイプだけでなく、日焼けによるシミ・ソバカスを防ぐための美白用タイプ、ハリやツヤを保つ小じわ防止用タイプ、化粧下地をかねたタイプなど様々な付加価値の高い機能を与えた美容液があります。

1-2-3. パック

パックは一定時間皮膚を皮膜状に覆い水分の蒸発を防ぎ、皮膚にうるおいを与え新陳代謝を活発にします。また、吸着作用によって皮膚の汚れや古くなった角質を取り去ります。保湿効果、清浄効果を重視したもの、部分的に過剰な皮脂や毛穴の汚れを取り除く効果を持たせた小鼻の周りなどのTゾーン専用、日焼けによるシミ・ソバカスを防ぐホワイトニング効果を持つものなど、いろいろな用途のパックがあります。

1-3. 保護用化粧品

油性成分と保湿成分がバランスよく配合し、皮膚にうるおいを与えると同時にしっとり柔らかく整えるいわゆる「エモリエント効果」を有する化粧品で、乳液とクリームがあります。なお、「エモリエント」とは、皮膚からの水分蒸散を防止してうるおいを保持し、皮膚を柔軟にするという「皮膚生理作用」のことです。

1-3-1. 保護用乳液

クリームと比べると油性成分が少なく使用感がさっぱりしており、流動性があるため皮膚へのなじみがよいという特徴があります。モイスチャーローションとも呼ばれます。実際の商品では、基本性能である保湿成分によるエモリエント効果に加えて、紫外線防止剤が加えられた製品もあります。製品の状態安定化のために界面活性剤（乳化剤）が用いられます。

1-3-2. 保護用クリーム

流動性の少ない半固形の化粧品で、乳液と同様、油性成分と保湿成分から構成され、主として保湿や柔軟効果を与える商品です。モイスチャークリームとも呼ばれます。紫外線防止剤が加えられた製品もあります。製品の状態安定化のために界面活性剤（乳化剤）が用いられます。

1-4. 美白化粧品

美白化粧品とは、日焼けなどによるメラニンの生成を抑制して肌本来の色調に近づけ、シミ・ソバカスを防ぐ目的で使用されます。この効能が認められた薬剤である美白剤が加えられています。

1-5. 紫外線防止化粧品

紫外線は波長が100～400nmの範囲の電磁波で、太陽光線に含まれています。地表に到達する電磁波の中で一番波長が短く高いエネルギーを持っており、多量の紫外線を皮膚に浴びると種々の障害が発生します。

紫外線防止化粧品（日焼け止め用化粧品）は紫外線防止剤により紫外線の悪影響から皮膚を守る製品です。製品形態はいろいろなものがあります。乳液、クリームタイプやファンデーション、美容液タイプのほかに最近ではフォームタイプ（泡タイプ）もあります。その防止効果の目安として、SPF（sun protection factor）とPA（protection grade of UVA）分類が記載されています。従って、使用目的によって、製品を選択することが重要です。紫外線とその防止指数（SPF及びPA）の詳しい解説については、54ページ、「Column 3 紫外線とその防止指数」を参照してください。

2. メークアップ化粧品

メークアップ化粧品の役割には美的役割（美しく見せる）、保護的役割（肌を守る）、そして心理的役割があります。心理的役割には気持ちにけじめをつける、活動への活力を生み出す、化粧することが楽しい等の化粧行動による安心感の機能や、変身願望に対する満足感としての機能があります。

2-1. ベースメークアップ化粧品

2-1-1. ファンデーション

シミ・ソバカスなどの欠点を隠して肌を美しく見せ、紫外線や乾燥などから肌を守る働きがあります。構成成分としては、粉体成分、色材とこれらを分散させる基剤で構成されます。色材としてはおもに体質顔料（製品の剤形を保ち、伸展性や付着性、光沢や色調などを調節するための希釈粉体）、白色顔料、着色顔料、パール剤などが、基剤としては油性成分、保湿成分、界面活性剤などが用いられます。

剤型別に分類すると、固形ファンデーション、液状ファンデーション、クリームファンデーションなどがあります。

2-1-2. 白粉（おしろい）

白粉（おしろい）はフェースパウダーとも呼ばれ、皮脂やファンデーション等の余分な油を吸収し、てかりをおさえ、肌の表面をなめらかにして自然に見せるためのベースメークアップ化粧品です。化粧くずれの防止や簡単な化粧直しにも用いられます。構成成分としてはタルクなどの体質顔料が主ですが、目的に合わせて、白色顔料や着色顔料も配合されています。

2-1-3. 化粧下地

メークアップベースともよばれ、おもにパウダータイプのファンデーションのつきとをよくし、化粧もちをよくするために、ファンデーションの前に塗布するもので、クリーム状のものが一般的です。油性成分を配合してファンデーションと肌との密着性を高めたり、紫外線防御のために超微粒子二酸化チタンのような、紫外線散乱剤も配合されています。また皮膚の凹凸補正に粉体高分子や無機高分子も配合されています。

2-2. ポイントメイクアップ化粧品

ポイントメイクアップ化粧品は目のまわりや唇などを彩り、質感を変えて、美しく魅力的に見せるためのものです。時代のトレンドを反映させるファッション性の高い商品です。



2-2-1. 口紅

リップカラーまたはリップスティックともよばれ、唇に色をつけ、輝きやつや感を与え唇に魅力的に見せるメイクアップ化粧品です。唇に魅力的な外観を与え、その色みが経時的に変化せず、また飲食時にカップや食べ物に触れても落ちにくいことが重要となっています。

主な構成成分は、色材と油性成分です。油性成分としては、口紅に形状を作り出す固形状のワックスと、のびやつやなどの使用感に影響を与えるオイル（油性液状成分）やペースト状成分があります。色剤としては有機合成色素、無機顔料、パール剤、天然色素が用いられます。

2-2-2. アイメイクアップ

アイメイクアップとしては種々のものがあります。アイシャドーは目元、とくに瞼（まぶた）を彩る化粧品です。アイライナーは上下のまつ毛の生え際にラインを入れ、目の輪郭をくっきり際立たせる化粧品です。マスカラはまつ毛を美しくみせるためのものです。アイブロー（眉墨）は眉を濃く見せたり、好みの形に描く化粧品です。

これらのアイメイクアップ化粧品は基本的には粉体ベースに着色顔料を混合し、油性成分に分散させたもので、形状は使いやすさを考慮して、スティックタイプ、ペンシルタイプ、クリームタイプなどがあります。

2-2-3. 頬紅

頬（ほお）に陰影をつけたり、血色をよく見せたりするポイントメイクアップ化粧品で、チークカラーまたはブラッシャーとも呼ばれます。パウダータイプやスティック状の固形状タイプなどがあります。構成成分として種々の色材が入っており、それ以外はファンデーションや白粉と類似しています。

2-2-4. ネイルエナメル

ネイルエナメルは爪に光沢と彩りを与えるとともに保護する化粧品です。ネイルラッカー、マニキュア、エナメルとも呼ばれます。構成成分としては、皮膜形成高分子、可塑剤、揮発性溶剤、色材などでできています。ネイルエナメルに用いられる皮膜形成高分子としては、ニトロセルロースが一般的ですが、アルキド樹脂等も併用されます。

ネイルエナメルに関連する化粧品としては、ネイルエナメルと爪との密着性を高めるベースコート、塗布してエナメルのもちをよくし光沢を高めるトップコート、ネイルエナメルを落とすネイルエナメルリムーバー等があります。

3. ヘアケア化粧品

ヘアケア化粧品は使用目的や機能によって多くの種類があります。機能別に大別すると、毛髪・頭皮を洗浄するもの、毛髪の形を一時的に整えるもの、毛髪を長く形つくるもの、毛髪に色を施すもの、毛髪を健康に育成するもの等があります。

3-1. 洗髪用化粧品

シャンプーやヘアリンス（コンディショナー）などがこの範疇に入ります。

3-1-1. シャンプー

シャンプーは頭髪及び頭皮の汚れを落とし、ふけ、かゆみを抑え、頭髪、頭皮を清潔に保つための洗浄用化粧品です。主成分は界面活性剤ですが、備えるべき機能として、適度な洗浄力、持続性のある泡立ち、頭皮、毛髪に対する高い安全性が必要です。陰イオン界面活性剤では洗浄力や起泡力の高いポリオキシエチレン라우リルエーテル硫酸ナトリウム等がよく用いられます。刺激性の低い陰イオン界面活性剤としてアミノ酸系界面活性剤が用いられることもあります。両性界面活性剤も用いられます。また起泡補助剤としてラウリルジメチルアミノキシド等の非イオン界面活性剤が配合されます。洗髪中およびすすぎ時の指通りをよくするためにカチオン化セルロース等の陽イオン性高分子物質が加えられることがあります。

リンス効果を兼ね備えたシャンプーも市販されており、リンスインシャンプーと呼ばれています。陽イオン性界面活性剤やシリコン油等が配合されています。

また、ふけ、かゆみを防ぐ効果の高いシャンプーがあり、有効成分としてジंकピリチオンやオクトピロクス等が配合されています。通常のシャンプーは薬機法では化粧品に分類されますが、ふけ、かゆみを防ぐシャンプー（薬用シャンプー）は医薬部外品に分類されます。

3-1-2. ヘアリンス

ヘアリンス（リンス）はシャンプー後に使用し、毛髪になめらかさを与えて毛髪の表面を整える化粧品です。リンスは陽イオン性界面活性剤である長鎖アルキル第四級アンモニ

ウム塩が主成分であり、なめらかさや、くしやブラシ通りの向上、うるおい感やつやの付与などを高めるために、コンディショニング成分として高級アルコールやシリコーン油などが加えられます。また毛髪と同じたんぱく質で毛髪によく吸着する加水分解コラーゲンや、リンス成分と同機能のカチオン化セルロースも用いられます。リンス機能を高めたものはヘアトリートメント及びヘアコンディショナーと呼ばれることがあります。ふけ、かゆみ防止効果を宣伝した製品もみられます。

3-1-3. ヘアトリートメント

ヘアトリートメントには、ヘアリンスの項で述べているようにシャンプー使用後にリンスのように使うインバストリートメントがありますが、これはつけて間もなく洗い流してしまいます。それに対して、髪を乾かした後に使うアウトバストリートメントがありますが、これは睡眠中など長い時間をかけて髪にトリートメント成分を浸透させて効果を発揮します。トリートメント機能を働かせる成分としては、毛髪と同じたんぱく質で毛髪によく吸着する加水分解コラーゲンや、リンス成分と同機能のカチオン化セルロースなどがあります。また、ぱさついたツヤがない傷んだ頭髪には、油性成分が効果的であり、それらを加えたものもあります。

3-2. 整髪剤

整髪剤（ヘアスタイリング剤）とは毛髪を固定、セットすることにより思い通りにヘアスタイルを形成保持するために使用される化粧品で、さまざまな形状のものが市販されています。

毛髪を固定、セットする方法として、高分子物質を用いて皮膜を形成するタイプと、常温で固形又はペースト状の油性成分を用いて毛髪間の粘着性を利用するタイプがあります。

ヘアフォーム（泡状整髪剤、ヘアムースと呼ばれることもある）、ヘアスプレー（霧状に噴霧する製品、ヘアミストと呼ばれることもある）、ヘアスタイリングジェル（ジェル状の透明整髪剤）、ヘアワックス（固形ないしクリーム状の整髪剤で固まらない自然なセット力が特徴）等があります。その他にも、主に男性用として、ヘアオイル、ポマード、チック、ヘアリキッド等があります。

3-3. パーマネント・ウェーブ用剤

パーマネント・ウェーブ用剤とはまず毛髪を意図的に所望の形にし（例えば、ウェーブを与えたり、くせ毛を真っ直ぐにする等）、パーマ剤1剤を塗布して毛髪構造を緩め、次に2剤を塗布して毛髪構造を再構築し、毛髪を長時間その状態に保つ剤をいいます。パーマ剤1液（還元剤）にはチオグリコール酸、システインまたはチオ乳酸などの還元剤とアルカリ剤が含まれていて、毛髪（ケラチン）の中のSS結合（ジスルフィド結合）を部分的に切断して変形しやすくします。パーマ剤2液（酸化剤）には臭素酸ナトリウムや過酸化水素などの酸化剤が含まれて、SS結合を再生します。なお、パーマネント・ウェーブ用剤は薬機法では医薬部外品に属しています。

3-4. 染毛剤（料）、脱色剤

染毛剤（あるいは染毛料）には、その持続性からヘアカラー（永久染毛剤）、半永久染毛料、一時染毛料に分類されますが、使用されている成分も作用機構もそれぞれ異なっています。薬機法での分類、名称も異なり、永久染毛剤、脱色剤、脱染剤は取り扱いに注意が必要なため医薬部外品に、また半永久染毛料、一時染毛料（注意：両者とも「染毛料」と呼び、「染毛剤」とはいわない）は化粧品に分類されます。

3-4-1. ヘアカラー（永久染毛剤）

一般的なヘアカラーは2剤式になっており、使用時に1剤、2剤を混合して毛髪に塗布します。1剤は染料とアルカリ剤、界面活性剤、酸化安定剤等とからなり、2剤は、酸化剤、酸、増粘剤等からなっています。毛髪を脱色し、同時に染料が毛髪内部に浸透して、酸化重合が起きて発色するように設計されています。薬機法では医薬部外品に分類されます。また使用できる染料として、承認基準のポジティブリストに収載されています。



ポジティブリストとネガティブリスト

ポジティブリストとは、使用を認められている物質のリストです。
ネガティブリストとは、使用できない物質のリストです。

たくさんの物質の中で、
ポジティブリストの物質しか使えない場合と
ネガティブリスト以外の物質を使える場合では
後者の方が使える物質の数は多く、よりゆるい基準といえます。

3-4-2. 脱色剤（脱染剤）

脱色剤は毛髪をはっきりした明るい色にするためのもので、毛髪のメラニン（褐色または黒色の色素）を酸化剤で脱色します。ヘアブリーチあるいはヘアライトナーとも呼ばれます。

染毛した髪の色を取り除くためのものを脱染剤と呼ぶことがありますが、毛髪中に定着した色を酸化剤で脱色します。デカラライザーとも呼ばれます。どちらも薬機法では医薬部外品に分類されます。

3-4-3. 半永久染毛料

かぶれやすい人に適しており、薬機法では化粧品に分類されています。色素が髪の内部まで浸透して染毛します。皮膚が染まりやすいものがあります。色持ちは2～4週間程度であり、シャンプーのたびに少しずつ色落ちていきます。一度の使用で染毛するものをヘアマニキュアとよび、繰り返し使用で染毛するものをカラーリンスやカラートリートメントと呼んでいます。

ヘアマニキュアには浸透剤が配合されています。

3-5. 育毛剤

育毛剤とは、頭皮機能を正常化し、頭皮の血液循環を良好にして毛包の機能を高めることにより、発毛、育毛促進および脱毛防止、同時に抜けやかゆみを防止するものです。

育毛剤は、アルコール水溶液に、血行促進剤、局所刺激剤、細胞賦活剤、抗男性ホルモン剤、皮脂分泌抑制剤、抗炎症剤等、種々の有効成分を配合して作られます。なお育毛剤とは、医薬部外品の名称であり、化粧品のカテゴリーでは養毛剤と呼ぶことがあります。



4. ボディケア化粧品

顔及び頭髪以外の身体のケアを目的としたものです。身体を洗浄するものが主流ですが、その他に、デオドラント化粧品や浴用剤もこのなかに含まれます。

4-1. 身体洗浄用化粧品

主な製品として、浴用石けん、ボディシャンプー、ハンドソープ等の身体洗浄剤があります。これらの洗浄剤には抗菌を目的とした薬用洗浄剤もあります。

4-1-1. 浴用石けん

石けんとは化学物質名としては長鎖脂肪酸塩の総称ですが、製品としては「長鎖脂肪酸塩からなる固形の身体洗浄剤」をいいます。洗いあがりやさっぱりしており、多くの日本人が石けんの感触を好んでいます。欠点はアルカリ性であること、耐硬水性に劣ること、泡立ちが使用中にだんだん悪くなることなどです。この欠点を改善した弱酸性石けんもあります。



なお、長鎖脂肪酸塩（石けん）ではなくて合成界面活性剤でできた固形の身体洗浄剤をシンデッドバー（あるいはコンバー）と呼び、海外で多く使用されていますが、日本での使用は少ないようです。

4-1-2. ボディシャンプー

身体用洗浄剤の中で液体洗浄剤は、ボディシャンプー（あるいはボディソープ）と呼ばれます。日本人は洗浄した後の感触が石けんのようなさっぱりしたものを好むため、長鎖脂肪酸塩（石けん）や起泡力の優れた陰イオン界面活性剤が用いられます。

4-1-3. ハンドソープ

手を洗うことを目的としたものです。その中で抗菌剤を配合した手洗い用固形石けんや液体洗浄剤は医薬部外品として市販されています。

4-2. デオドラント化粧品

汗臭さやべとつきを解消し、体臭をおさえ、芳香を残す化粧品です。粉体ベースのものは、タルクのような無機高分子に、腋臭防止剤として制汗物質、消臭剤、抗菌剤を配合し、汗を吸い取りサラサラ感を残すようにしたものです。液体ベースのものは、エタノールのような溶剤に制汗物質、抗菌剤、香料などを溶かし、肌が衣類にまとわりつかないようにシリコンなどを配合しています。製品形態としては、パウダースプレー、アルコールスプレー、ロールオン、スティック、パウダーなどがありますが、日本ではパウダースプレーが最も一般的です。

4-3. 浴用剤

浴用剤は、入浴の際、湯に混ぜ使用するもので、温泉や薬湯のもつ効果を家庭で得ることを目的としています。効果薬剤の働きで保湿効果を高め血行を促進する、体臭を抑え清潔で健康な肌を保つ、心身に安らぎや活力を与えて気分を爽快にする、あせも、ひびや荒れた肌などにうるおいを与え正常化するなどの効果があり、入浴剤ともいわれます。

タイプとしては、バスオイル、バスソルト（粉末・顆粒）、バブルバス（粉末・液状顆粒、固形ジェル）などがあります。処方構成成分としては、硫酸ナトリウム等の無機塩類に加え、温浴効果をもたらす血行促進剤として植物エキス（センキュウ、トウキ）などや二酸化炭素（炭酸ガス）を浴槽中で発生させる成分が配合されているものがあります。

5. 歯磨き剤

歯磨き剤は、歯ブラシと併用して歯口清掃の効果を高め、歯科疾患予防・抑制、口臭除去などを目的とします。歯磨き剤の主な成分は、研磨剤、湿潤剤、発泡剤、粘結剤、香味剤および薬効成分等です。研磨剤としては、歯牙の表面を傷つけることなく、歯面の付着物を除去する必要があります。そのために歯牙表面を構成するエナメル質よりモース硬度が小さく（3以下）、歯面や歯肉を傷つけないように粒子径は $20\mu\text{m}$ 以下の炭酸カルシウムや無水ケイ酸などの粉末が用いられます。ドデシル硫酸ナトリウムなどの界面活性剤（発泡剤）は、研磨剤を口腔中に拡散させて清掃効果を高め、また、表面張力低下による洗浄効果をもたらします。再石灰化を促進するフッ化ナトリウムや歯垢を分解するデキストラナーゼ酵素が配合されているものもあります。

6. フレグランス化粧品

フレグランス化粧品（芳香化粧品）は香りが主役の化粧品です。調合した香料をアルコール（エタノール）等に溶かしたものであって、香料の含有率等で、異なった呼称になっています。

6-1. 香水

調合香料を20～30%の割合でアルコール（エタノール）に溶かしたもので、芸術的な香りが長く持続します。

6-2. オーデコロン

調合香料の割合が香水よりも低く、香りを気楽に楽しむ化粧品です。そのうち調合香料を7～10%の割合でアルコール（エタノール）に溶かしたものをオードトワレといい、3～5%のものをオーデコロンと区別して呼ばれることがあります。



7. 種類別製品分類表

スキンケア化粧品

分類	小分類	主要成分	助剤	製品の用途・特徴
洗淨用化粧品	洗顔料	界面活性剤	粉体高分子	洗淨用化粧品。ホコリ・汗などの水性の汚れを落とし、皮膚を清潔にする。高級脂肪酸塩からなる洗顔用石けんや高起泡性低刺激性界面活性剤を主成分とする洗顔フォーム（洗顔クリーム）がある。角層剥離作用をもつ粉体高分子がスクラブ剤として入っているものもある。
	メイク落とし	油性成分	界面活性剤	メイクアップ化粧品を落とすための洗淨用化粧品。皮膚表面に付着しているメイクアップ化粧品などを溶かし込んで、皮膚から浮き上がらせる油分を多く含む洗顔料で、クレンジング（あるいはクレンジングクリーム）とも呼ばれることもある。
整肌用化粧品	化粧水	保湿成分	エタノール、収れん剤、油性成分	皮膚に水分や保湿成分を補給し、保湿効果を高め、皮膚のモイスターバランスを保つ働きをする。
	美容液	保湿成分	水溶性高分子、有効成分	美容液は化粧水と異なって粘度が高く、保湿機能と共にクリームや乳液のようなエモリエント（柔軟）機能を合わせ持っています。エッセンスとも呼ばれる。
	パック	保湿成分	皮膜形成高分子	パックは一定時間皮膚を皮膜状に覆い、水分の蒸発を防ぎ、皮膚にうるおいを与え新陳代謝を活発にする。また、吸着作用によって皮膚の汚れや古くなった角質を取り去る。保湿効果、清浄効果を重視したもの、部分的に過剰な皮脂や毛穴の汚れを取り除く効果を持たせた小鼻周りなどのTゾーン専用、日焼けによるシミ・ソバカスを防ぐホワイティング効果を持つものなど、いろいろな用途のパックがある。
保護用化粧品	保護用乳液	油性成分	保湿成分、界面活性剤、紫外線防止剤	保護用化粧品。クリームと比べて油分が少なく水分が多く、クリームと化粧水の中間的性質を持っている。くずれたモイスターバランスを保湿成分や油分、水分の補給によって正常に整える。モイスターローションとも呼ばれる。
	保護用クリーム	油性成分	保湿成分、界面活性剤、紫外線防止剤	保護用化粧品。油分、保湿成分、水分などを含み天然の皮脂のかわりにすばやく人工の皮脂膜をつくり、皮膚を保護する。一般に、白くツヤのある半固体状である。モイスタークリームとも呼ばれる。
美白化粧品	美白化粧品（注）	美白剤		美白化粧品とは、日焼けなどによるメラニンの生成を抑制して肌本来の色調に近づけ、シミ・ソバカスを防ぐ目的で使用されます（注）。
紫外線防止化粧品	紫外線防止化粧品	紫外線防止剤		紫外線の悪影響から皮膚を守る化粧品。

（注）薬用化粧品（医薬部外品）として、効能・効果が承認されている場合

メイクアップ化粧品

分類	小分類	主要成分	助剤	製品の用途・特徴
ベースメイクアップ化粧品	ファンデーション	無機顔料	油性成分、保湿成分、パール剤	しみやそばかすなどの欠点を隠して肌を美しく見せ、紫外線や乾燥などから肌を守る働きを持つ。形状としては、固形、液状及びクリーム状ものがある。
	白粉（おしろい）	体質顔料	白色顔料、着色顔料	皮脂やファンデーション等の余分な油を吸収し、てかりをおさえ、肌の表面をなめらかにして自然に見せるためのベースメイクアップ化粧品。化粧くずれの防止や簡単な化粧直しにも用いられる。
ポイントメイクアップ化粧品	化粧下地	油性成分	粉体高分子、無機高分子、紫外線散乱剤	おもにパウダータイプのファンデーションのつきとのびをよくし、化粧もちをよくするために、ファンデーションの前に塗布するもので、クリーム状のものが一般的。
	口紅	色材	油性成分	口紅は唇を彩る化粧品。唇に魅力的な外観を与え、その色みが経時的に変化せず、また飲食時にカップや食べ物に触れても落ちにくいことが重要。
	アイメイクアップ	着色顔料	油性成分	製品として、アイシャドー（目元、まぶたを彩る）、アイライナー（上下のまつ毛の生え際にラインを入れる）、マスカラ（まつ毛を美しくみせる）、アイブロウ（眉を濃く見せたり、好みの形に描く）等がある。
	頬紅	色材	油性成分	頬（ほお）に陰影をつけたり、血色をよく見せたりする。
	ネイルエナメル	皮膜形成高分子	顔料、揮発性溶剤	爪（つめ）に光沢と彩りを与えるとともに、保護する。

ヘアケア化粧品

分類	小分類	主要成分	助剤	製品の用途・特徴
整髪用化粧品	シャンプー	界面活性剤	高分子物質、 抗菌剤	頭髮及び頭皮の汚れを落とし、ふけ、かゆみを抑え、頭髮、頭皮を清潔に保つための洗浄用化粧品。
	ヘアリンス	界面活性剤 (陽イオン系)	油性成分、 水溶性高分子	シャンプー後に使用し、毛髪になめらかさを与えて毛髪の表面を整える化粧品。
	ヘアトリートメント	生体高分子	水溶性高分子	シャンプー使用後にリンスのように使うインバスタイプ（洗い流すタイプ）と髪を乾かした後に使うアウトバスタイプとがある。後者は睡眠中など長い時間をかけて髪にトリートメント成分を浸透させて効果を発揮する。
整髪剤	整髪剤	油性成分	高分子物質	毛髪を固定、セットすることにより思い通りにヘアスタイルを形成保持するために使用される化粧品。
パーマ剤・ウェーブ用剤	パーマ剤・ウェーブ用剤	還元剤	アルカリ剤、 酸化剤、 pH調整剤	毛髪を所望の形（ウェーブを与えたり、くせ毛を真っ直ぐにする等）にする。パーマ剤1剤（還元剤）を塗布して毛髪構造を緩め、次に2剤（酸化剤）を塗布して毛髪構造を再構築し、毛髪を永久的に変形させる。
染毛剤、脱色剤	ヘアカラー（永久染毛剤）	染料	酸化剤、 pH調整剤、 界面活性剤、 増粘剤	一般的なヘアカラーは2剤式になっており、使用時に1剤、2剤を混合して毛髪に塗布する。毛髪を脱色し、同時に染料が毛髪内部に浸透して、酸化重合が起きて発色するように設計されている。
	脱色剤（脱染剤）	酸化剤		脱色剤は毛髪をはっきりした明るい色にするためのもので、毛髪のメラニン（褐色または黒色の色素）を酸化剤で脱色する。脱染剤は染毛した髪の色を取り除くためのもので、毛髪中に定着した色を酸化剤で脱色する。
	半永久染毛料	染料	浸透剤	色素が髪の内外部まで浸透して染毛する。皮膚が染まりやすいものがある。色持ちは2～4週間程度であり、シャンプーのたびに少しずつ色落ちしていく。
育毛剤	育毛剤	血行促進剤	抗炎症剤、 殺菌剤	頭皮機能を正常化し、頭皮の血液循環を良好にして毛包の機能を高めることにより、発毛、育毛促進および脱毛防止、同時にふけやかゆみを防止するもの。なお育毛剤とは医薬部外品の名称であり、化粧品のカテゴリーでは養毛料と呼ばれる。

ボディケア化粧品、歯磨き剤、フレグランス化粧品

分類	小分類	主要成分	助剤	製品の用途・特徴
身洗浄用化粧品	浴用石けん	高級脂肪酸塩		高級脂肪酸塩からなる固形の身体洗浄剤。
	ボディシャンプー	界面活性剤		液体の身体用洗浄剤。
	ハンドソープ	界面活性剤	抗菌剤	手を洗うことを目的としたもので、抗菌剤を配合した手洗い用固形石けんや液体洗浄剤は医薬部外品として市販されている。
デオドラント化粧品	デオドラント化粧品	無機高分子	制汗物質、殺菌剤	汗臭さやべとつきを解消し、体臭をおさえ、芳香を残す化粧品。
浴用剤	浴用剤	血行促進剤	着色剤、香料	温泉や薬湯のもつ効果を、家庭で得ることを目的として、温浴効果をもたらす血行促進剤などが配合されている。また心身を和らげる効果を目的に、湯浴の着色・香料（賦香剤）などが入っている。
歯磨き剤	歯磨き剤	無機高分子	界面活性剤、殺菌剤、酵素、フッ素剤	歯ブラシと併用して歯口清掃の効果を高め、歯科疾患予防・抑制、口臭除去などを行う。
フレグランス化粧品	香水	調合香料	エタノール	調合香料を20～30%の割合でアルコール（エタノール）に溶かしたもので、芸術的な香りが長く持続する。
	オードトワレ	調合香料	エタノール	調合香料を7～10%の割合でアルコール（エタノール）に溶かしたものの。
	オーデコロン	調合香料	エタノール	調合香料を3～5%の割合でアルコール（エタノール）に溶かしたものの。

化粧品の構成成分

(III) 化粧品の構成成分

化粧品に用いられる配合原料は、使用目的に応じた有用性（機能）や使用性（使用感）に優れていること以外に、人体に対する安全性が高く、また長期に保存安定性が良好で、においの変臭がないことなどが必要です。

化粧品の原料を大雑把に分類すると、化粧品のベースを構成するのに必要な基剤原料、効能・効果を訴求するための薬剤原料、製品の品質を保つに必要な品質保持原料、色や香りに関連する官能的特徴付与原料に分けられます。

1. 油性成分

油性成分は目的に応じて幅広く用いられますが、皮脂膜に近づけるように、皮脂にみられる中性脂肪としてオリーブ油やホホバ油、スクワランなどの動植物性油脂、コレステロールやそのエステル油などが配合されています。また、堅さや感触を変えたり、安定化するためにミツロウ等のロウ類、ワセリンなどの炭化水素、ステアリン酸などの高級脂肪酸、セタノールなどの高級アルコールなどの固形や半固形の油分が配合されますが、乳液では固形や半固形の油分の割合がクリームより少ないので流動性があります。また、油性感のないジメチルポリシロキサン、シクロメチコン等のシリコンオイルなども使われます。

2. 界面活性剤

洗顔料、シャンプー、浴用石けん、ボディシャンプーやハンドソープなどの洗浄剤では主成分として界面活性剤が配合されています。

界面活性剤は水になじみやすい親水性の性質と油になじみやすい親油性の性質の両方を持つ化学物質をいいます。水分と油分のようにそのままでは均一に混ざり合わない両者をなじみやすくする働きを持っています。

化粧品は皮膚に直接使用しますので、出来るだけ皮膚刺激性などの少ない界面活性剤が用いられます。（→界面活性剤の構造等については、身の回りの製品に含まれる化学物質シリーズ「洗剤」を参照してください。）

3. 保湿成分

保湿成分（保湿剤）は吸湿性の高い水溶性の物質であり、水にはよく溶け皮膚になじみやすい物質で、水を含ませて皮膚につけると皮膚表面及び角層の内部にしばらくとどまって水分を与え、しっとりさせる働きをもっており、皮膚、毛髪の水分の蒸散をおさえ乾燥を防止する作用があります。ヒューメクタントあるいはモイスチャライザーと呼ばれることがあります。

保湿成分としては多価アルコール類がもっとも多く用いられていますが、それ以外にも糖類や水溶性の生体高分子、天然保湿因子（natural moisturizing factor、NMFと略記される）であるピロリドンカルボン酸ナトリウムなどが使用されています。また最近では、アミノ酸類や尿素も使用されています。

4. 高分子物質

高分子物質（高分子化合物、ポリマー）とは、分子量の大きい物質の総称で、その範囲は非常に広い。化粧品に関連する高分子物質としては、水溶性高分子、生体高分子、皮膜性高分子、粉体高分子に分類することが出来ます。また無機物の粉体も無機高分子として、この範疇に入ります。

■水溶性高分子は粘度調整（増粘、ゲル化）、液状安定化（乳化、分散）、泡安定化等の目的で使用されます。従来、天然高分子が使用されてきましたが、供給性、品質安定性、微生物汚染などの観点から、最近では半合成高分子（カルボキシメチルセルロース等）や合成高分子（ポリビニールアルコール、ポリビニルピロリドン等）が多く用いられるようになり、その種類は多岐にわたっています。

■生体高分子とは生体由来の高分子であって、真皮の構成成分である酸性ムコ多糖類のヒアルロン酸ナトリウムやたんぱく質の可溶性コラーゲンやエラスチンなどが保湿成分として用いられます。なお、これらの生体高分子は保湿作用のほかにも皮膜形成、増粘、乳化などの機能を併せ持っています。

■皮膜形成高分子は皮膜形成能を有する高分子のことで、化粧品ではパック、ネイルエナメル、シャンプーなどに配合されています。代表的なものとしては、パックに用いるポリビニールアルコールやネイルエナメルに用いるニトロセルロース等があります。

■粉体高分子は製品の剤型保持や使用感触向上の機能を有する粉状の高分子です。ポリエチレン粉末やナイロン粉末などが用いられます。またスクラブ剤（マッサージ効果や洗浄効果を增强するために使用する粉末）としても用いられます。

■無機高分子としてはシリカ、マイカ、タルクなどの無機粉体があります。賦形剤^(注)、充填剤、無機顔料あるいは研磨剤等広い用途に用いられます。

(注)：賦形剤（ぶけいざい）：あつかいやすい形態とするために有効成分に加える影響のない成分。

5. 増粘剤

製品の粘度を調節し、なめらかな使い心地にする働きや保湿性のために用いられます。

6. 溶剤

何かを溶かすための液体です。ネイルエナメルでは主に酢酸エチル等が使用され、皮膜形成高分子を溶かして爪に塗りやすくし、塗った後にこの液体部分が蒸発することで、爪の上に皮膜を形成します。また、香水等のフレグランスにおいては、エタノール等が使用され、香り成分を溶かします。使用時に香り成分の蒸発を調整する働きも持ちます。

7. 色材

色材（着色剤）は化粧品に配合して、おもに皮膚を適度に被覆、彩色して美しく見せる目的でメイクアップ化粧品などに配合されます。

物質としては有機合成色素（合成染料、レーキ、有機顔料）、天然色素、無機顔料（体質顔料、着色顔料、白色顔料）に大別され、またパール剤（真珠光沢顔料）も用いられます。

7-1. 有機合成色素

発色性、純度の高さから化粧品色材として適しているのが、有機系の合成色素です。中でもタール色素は様々な色合いを表現でき、その色調の豊富さからメイクアップ製品に広く使用されています。

7-2. 天然色素

動植物または微生物から抽出されるのが天然色素です。β-カロチンやカルサミン（紅花）、クロロフィル（葉緑素）などがあります。天然色素だけでは微妙な色調を出すことができませんが、自然志向や薬理効果の面から見直されています。

7-3. 無機顔料

無機顔料には酸化鉄（ベンガラ）、グンジョウ、カーボンブラックなどの着色顔料、被覆力の強い酸化チタン、酸化亜鉛などの白色顔料、着色顔料を薄めたり、油分や水分の吸水性に優れているタルク、カオリンなどの体質顔料があります。

7-4. パール剤

光を一定方向に反射し、輝きを感じたり、虹のような色を発したりする仕上がりのこと

をパール感とよび、このような特性を持った素材をパール剤（真珠光沢顔料）といいます。代表的な素材として、アルミニウム粉末、酸化鉄被覆雲母チタンなどがあります。

また、きらきらとした点在感のある輝きを放つ材料としてラメ剤があります。素材としては、屈折率の異なる複数の高分子を100層前後に積層させ、干渉光で輝きを出します。アルミニウムを蒸着させて、金属光沢を出すものもあります。

8. 香料

香料にはたくさんの種類があり、植物や動物から採取した天然香料と、天然香料に含まれる成分を基に化学的に作られた合成香料に大きく分けられます。そして天然香料や合成香料を目的に応じて調合した香料を調合香料といいます。

9. 紫外線防止剤

紫外線防止剤（紫外線防御剤、サンスクリーン剤）には、紫外線を効果的に吸収する有機化合物の紫外線吸収剤と、紫外線を有効に反射・散乱させる粉体の紫外線散乱剤の2種類に大別され、目的によって種類と量を調整して配合されます。

紫外線吸収剤は、吸収剤そのものが紫外線を吸収し、化学反応により別の波長の光や熱などの害のない他のエネルギーに変化させて肌の表面から放出させ、肌の内部に紫外線の悪影響が及ぶのを防ぐものです。皮膚の中に紫外線を吸収するものではなく、皮膚を傷めたり、皮膚が赤くなったりすることはありません。

紫外線散乱剤は、おもに超微粒子粉体で、肌表面で紫外線を散乱させて、皮膚内部へ浸透するのを防ぐものです。

10. 抗菌剤

抗菌剤とは、有害な微生物を殺菌したり、増殖を抑制したりする薬剤で、防腐剤と殺菌剤を便宜的に称してよびます。

防腐剤は細菌やカビ等微生物が繁殖せず、安全に快適に使用できるように製品の品質を保証する薬剤です。多くの化粧品には厳しい安全性試験をクリアした防腐剤が配合量の上限内で添加されています。

殺菌剤は短時間に菌を死滅もしくは減少させる効果をもち、にきび用製品やデオドラント化粧品に配合されます。化粧品に用いられる殺菌剤としては、塩化ベンザルコニウムや塩化ベンゼトニウムのような第四級アンモニウム塩、クロロヘキシジン等があります。また、ふけ防止効果を得ることを目的として、ジンクピリチオンやオクトピロクス等が用いられます。

なお、防腐剤と殺菌剤は使用目的や微生物に対する作用形態などが異なり、区別されていますが、実際はあまり厳密な区別ではなく、同一の物質を使用目的により、防腐剤として使用したり、殺菌剤として使用したりします。

11. 酸化防止剤

酸化防止剤は化粧品や食品などの品質を保持するために用いられます。化粧品に使われる原料の中には、空気中の酸素などによって変質しやすい物質が含まれています。このため化粧品を酸素から守る働きのある酸化防止剤が必要になります。

12. キレート剤

化粧品に混入された微量な金属イオンが原因で、油性原料の酸化を促進し変臭、変色したり、他の薬剤の作用を阻害したり、あるいは化粧水の沈殿を生じさせたりすることがあります。こうした微量の金属イオンを不活性化する物質が金属イオン封鎖剤(キレート剤)です。

13. pH調整剤

化粧品の品質を保持のためにそれぞれの化粧品にあったpHに保持することが必要です。pH調整剤はそれぞれの化粧品のpHを適切な状態に保つためや化粧品の原料を配合する際の中和などに使用されます。

14. 酸化剤

物質を酸化させる働きを持つ成分です。ヘアカラー（永久染毛剤）においては毛髪に浸透した酸化染料を発色するための酸化剤として過酸化水素等が用いられます。脱色剤においては、毛髪のメラニンの脱色のために用い、脱染剤では毛髪中に定着した色を脱色するために使用されます。また、パーマネント・ウェーブ用剤では、パーマ1剤（還元剤）で緩められた毛髪構造を、2剤（酸化剤）として、再構築して、毛髪を永久的に変形させるために使用され、過酸化水素や臭素酸ナトリウムが用いられます。

15. 還元剤

物質を還元させる働きを持つ成分です。パーマネント・ウェーブ用剤の1剤として、毛髪構造を緩めるためにチオグリコール酸等が用いられます。

16. 浸透剤

半永久染毛料では、色素の毛髪への浸透性を高めるために、ベンジルアルコール等が用いられます。

17. 有効成分

有効成分とは、薬用化粧品を含む医薬部外品に配合される緩和な薬理作用をもった成分で、美白、肌荒れ防止、ニキビ防止、日焼け防止、育毛など特定の目的に対して効能・効果が認められた成分をいいます。

17-1. 美白剤

美白剤は「日焼けなどによるメラニン（褐色あるいは黒色の色素）の生成を抑制し、その沈着を予防する」ことを目的とする化粧品や医薬部外品に配合される美容成分です。つまり、日焼けの後に肌が黒くなったり、シミやソバカスが増えて、肌の美しさが損なわれるのを防ぐための成分です。

17-2. 育毛剤

育毛剤は育毛作用に直接関わる作用、すなわち発毛促進、脱毛予防に重点がおかれており、同時に養毛剤のフケ、かゆみを抑える効果も持たせてあります。血流促進、栄養補給、細胞賦活そして男性ホルモン抑制等の効能又は作用をもつ成分が使用されます。

17-3. 肌荒れ防止剤

外界からの影響（乾燥、紫外線、刺激等）や内部環境の影響（疾病、精神状態等）を受けて発生する肌荒れを予防、改善する剤のことです。肌荒れ防止用に使用される成分は非常に数が多く、肌荒れの発生原因に応じて、組み合わせで使用されます。

配合される成分としては、抗炎症剤、ビタミン、ホルモン類や植物エキス類、殺菌剤などがあげられます。また肌の乾燥が原因である肌荒れに対しては、油性成分や保湿成分が組み合わせられます。

17-4. しわ防止剤

しわの主な発生原因は、紫外線や肌の乾燥などの外部要因と、老化による代謝機能低下があります。

防止成分としては、活性酸素やフリーラジカルによる皮膚のダメージをおさえる抗酸化剤、衰えた皮膚代謝機能を賦活させる細胞賦活剤、老化により減少するコラーゲン線維の分解・変性をおさえるコラゲナーゼ抑制剤、エラスターゼ抑制剤などがあります。また、紫外線防止剤や保湿成分などが上記成分と組み合わせで使用されます。

17-5. にきび用化粧品

にきび用化粧品には皮脂分泌抑制剤、角質溶解剤、殺菌剤、抗炎症剤などが組み合わせ

て配合されています。皮脂の分泌は男性ホルモンにより促進されるので、その作用を抑える黄連（おうれん）、黄柏（おうばく）などの生薬やオウゴン、セージなどの植物エキス、ビタミンB6（ピリドキシン）などのビタミン類などが配合されています。また、毛穴をふさいでいる角質をとり除くためにイオウ、サリチル酸などの角質溶解剤が使用されます。

17-6. ふけ・かゆみ用剤

ふけの発生やそれに伴うかゆみ、炎症を防止するためには、皮脂の分泌を抑制するための皮脂分泌抑制剤、ふけ原因菌の増殖をおさえる殺菌剤、皮脂の酸化をおさえる抗酸化剤、多量に生成した角質を減少させるための角層剥離・溶解剤、かゆみや炎症を防ぐ鎮痒剤や抗炎症剤などが用いられます。

17-7. 腋臭防止剤

腋臭（えきしゅう）防止剤としては、汗孔のたんぱく質に結合して凝固収縮させることで、汗孔を狭くして汗の発生を防ぐ収れん効果をもつ制汗物質や、発汗した汗をすみやかに吸収することで細菌との接触を防ぎ、汗の変性を抑える水分吸収剤、細菌そのものの働きをおさえる殺菌剤などがあります。

制汗成分としてはクロルヒドロキシアルミニウム（塩化アルミニウム水和物、ACH）、アラントインクロルヒドロキシアルミニウム、硫酸アルミニウムカリウム（ミョウバン）などのアルミニウム塩が良く使われ、ついで硫酸亜鉛やパラフェノールスルホン酸亜鉛などの亜鉛塩がよく使われます。なかでも、クロルヒドロキシアルミニウムは粉末のままでも水に溶かしても使え、制汗効果も高く、皮膚刺激も少ないので最も多く使われる成分です。

水分吸収剤として、タルク、酸化亜鉛、微粉シリカ、多孔性高分子などが使用されます。

17-8. 収れん剤

収れん（収斂）剤とは皮膚のたんぱく質に作用して軽く凝固させることにより、化学的に皮膚を引き締めたり、整えたりする作用を持つ物質をいいます。一時的に汗や皮脂の分泌を抑制させ、皮脂量を正常に保ちます。皮膚への作用の緩和なクエン酸、酒石酸、乳酸などの有機酸や、収れん効果の強い酸化亜鉛（亜鉛華）などの金属塩があります。

17-9. その他の有効成分

化粧品にはこれまで述べた成分以外にも、生体の生理機能に関与する成分として、アミノ酸、ビタミン等種々の成分が配合されています。また天然物由来成分として植物抽出物も多く利用されています。

18. 構成成分情報表

化粧品はいろいろな構成成分で作られています。その代表的成分を記載しました。

ところで、薬機法の化粧品は全成分が表示されますが、同じ物質でも化学物質の名称・慣用名や取れる植物名等や、化学的名称等で書くとまったく違う名称になります。そこで、表示する名称のリストを業界団体（日本化粧品工業連合会）が作成していますので、「表示名称」としてその名称を記載しました。また、よく使われる名称のいくつかを「その他の名称」に上げました。しかし、界面活性剤のように、いろいろな物質が集まって成分を構成しているような物質では、成分を特定できないのでここでは表示名称は記載していません。また、薬機法の化粧品に該当しない製品に使用される物質は表示名称を特定していません。

また、その成分がどれぐらい含まれているか等はこの表では考慮されていないので、正確に知りたい場合はCAS RN等の情報をメーカーにお尋ねください。

（注）CAS RN（CAS登録番号：CAS Registry Numbers[®]）は、アメリカ化学会の一部門である世界最大級の化学情報サービス機関（Chemical Abstracts Service：CAS）が、化学物質に付与している番号。CASの知的財産であり、CASの使用許可に基づいて使用されている。CASの事前許可なくCAS登録番号を再配布することは禁じられている。

1. 油性成分

小分類	表示名称	その他の名称【備考】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
炭化水素類	ミネラルオイル	流動パラフィン、ホワイトオイル	8042-47-5	油性成分は目的に応じて幅広く用いられる。肌を柔軟にする、油分を与える、使用感を高める等の特徴をもち、エモリエント剤とも呼ばれる。乳液やクリームは、水相成分と油相成分が乳化されているエマルジョンであり、油性クリームは化粧落としを目的とするクレンジングクリームやマッサージクリームに配合される。
	イソドデカン	2,2,4,6,6-ペンタメチルヘプタン	31807-55-3	
	スクワラン	合成スクワラン、植物性スクワラン、2,6,10,15,19,23-ヘキサメチルテトラコサン	111-01-3	
植物油	オリーブ油	オリーブ油	8001-25-0	
		椿油		
	サザンカ油			
		サンフラワー油		
	ヒマシ油		8001-79-4	
	ダイズ油		8001-22-7	
動物油	ラノリン	(ヒツジの毛から得た脂肪様の物質を精製したもの)	8006-54-0	
高級アルコール	セタノール	セチルアルコール	36653-82-4	
	ステアリルアルコール	オクタデシルアルコール	112-92-5	
	ラウリルアルコール	ドデシルアルコール、ドデカン-1-オール	112-53-8	
	オレイルアルコール	オセノール	143-28-2	
脂肪酸	ステアリン酸	オクタデカン酸	57-11-4	
	イソステアリン酸		30399-84-9	
脂肪酸エステル	アジピン酸ジイソノニル	ジイソノニルアジペート【DINA】	33703-08-1	
	ミリスチン酸イソプロピル		110-27-0	
	ラウリン酸ヘキシル		34316-64-8	
	オレイン酸デシル	デシルオレアート	3687-46-5	
	リノール酸イソプロピル	セラフィルIPL	22882-95-7	
	ミリスチン酸ミリスチル		3234-85-3	
	ミリスチン酸オクチルドデシル		88332-30-3	
シリコーン油	ジメチコン	ジメチルポリシロキサン	63148-62-9	
		メチルフェニルポリシロキサン	63148-58-3	
	ジフェニルジメチコン	ジフェニルポリシロキサン・ジメチルポリシロキサン共重合体	68083-14-7	

2. 界面活性剤 (1)

小分類	名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
陰イオン系	アルキル硫酸エステル塩、 高級アルコール硫酸エステル塩【AS】	142-31-4 151-21-3 1120-01-0 4706-78-9 68130-43-8 68815-25-8	水分と油分のようにそのままでは混ざり合わない両者をなじみやすくする働きを持ち、乳化、可溶化、分散、洗浄、浸透、保湿、殺菌、潤滑、帯電防止、柔軟、起泡、消泡等の作用をもつ。
	アルキルエーテル硫酸エステル塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩【AES】	9004-82-4 68891-38-3	
	N-アシル-N-メチルタウリン塩	137-20-2 27236-38-0 61791-42-2	
	N-アシル-N-メチルグリシン塩、N-アシルザルコシン塩	97-78-9 110-25-8 137-16-6 2671-91-2 75195-12-9	
	N-アシル-N-メチル-β-アラニン塩	13222-32-7 21539-58-2 21539-57-1	
	N-アシルグリシン		
	ラウロイル-β-アラニン		
	N-アシルグルタミン酸塩	29923-31-7 38079-62-8 38517-23-6	
	ポリオキシエチレンアルキルエーテルカルボン酸塩	33939-64-9	
	高級脂肪酸塩、高級脂肪酸ナトリウム、高級脂肪酸カリウム、石けん	143-19-1 822-16-2 10124-65-9	
	モノアルキルホスファート【MAP】	7423-32-7 7638-52-0 14245-44-4 50957-96-5	
陽イオン系	アルキルトリメチルアンモニウム塩、 ラウリルトリメチルアンモニウムクロリド、 n-ドデシルトリメチルアンモニウムクロリド	57-09-0 112-00-5 112-02-7 112-03-8 1120-02-1 61789-18-2	
	アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩、 塩化ベンザルコニウム、 アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド	139-07-1 61789-71-7	

2. 界面活性剤 (2)

小分類	名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
両性イオン系	アルキルアミノ脂肪酸塩、N-アルキル- β -アラニン	1462-54-0	
		14960-08-8	
	アルキルジメチルベタイン、 N-テトラデシル-N,N-ジメチル- α -カルボン酸ベタイン、セチルベタイン、アルキルベタイン	820-66-6	
		2601-33-4	
		2644-45-3	
		68424-94-2	
	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド、アルキルジメチルアミノオキシド、アルキルアミノオキシド【AO】	1643-20-5	
		2571-88-2	
非イオン系	アルキルポリエトキシレート【AE】	9002-92-0	水分と油分のようにそのままでは混ざり合わない両者をなじみやすくする働きを持ち、乳化、可溶化、分散、洗浄、浸透、保湿、殺菌、潤滑、帯電防止、柔軟、起泡、消泡等の作用をもつ。
		9004-95-9	
		9004-98-2	
		61791-13-7	
		68002-97-1	
	グリセリン脂肪酸エステル、アシルグリセリン、アシルグリセリド	111-03-5	
		123-94-4	
		142-18-7	
		542-44-9	
		19670-51-0	
		67701-31-9	
		67701-32-0	
	しょ糖脂肪酸エステル、しょ糖ステアリン酸エステル【SE】	25168-73-4	
		25339-99-5	
		26446-38-8	
		27195-16-0	
	ソルビタンモノラウレート	1338-39-2	
	1,5-ソルビタン=n-オクタデカノアート、ソルビタンモノステアラート	1338-41-6	
	ソルビタンモノオレート	1338-43-8	
	ソルビタンセスキオレート	8007-43-0	
	ソルビタンモノヘキサデカノアート	26266-57-9	
	ソルビタンオクタデセノアート	26266-58-0	
	ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル	9004-81-3	
		9004-96-0	
		9004-99-3	
		68153-64-0	
	オレアミドDEA、オレイン酸ジエタノールアミド	93-83-4	
	ラウラミドDEA、ラウリン酸ジエタノールアミド	120-40-1	
	カプラミドDEA、カプリン酸ジエタノールアミド	136-26-5	
	ミリスタミドDEA、ミリスチン酸ジエタノールアミド	7545-24-6	
	ココナツ油脂肪酸ジエタノールアミド	8051-30-7	
	コカミドDEA、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド		
	パルミチン酸ジエタノールアミド	7545-24-6	
	ステアラミドDEA、ステアリン酸ジエタノールアミド	34202-37-4	
	ウンデシレン酸ジエタノールアミド	45233-61-2	
	ポリオキシエチレンアルキルアミン	26635-93-8	
		58253-49-9	
		61791-26-2	

3. 保湿成分

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
多価アルコール類	グリコール	エチレングリコール【EG】	107-21-1	皮膚の角層成分との親和性に富み、角層成分との相互作用において水分を保持しやすいもので、その結果として、角層水分量を長時間にわたって高める効果を有する。化粧水、乳液、クリーム等に配合される。
	PG	プロピレングリコール	57-55-6	
	BG	1,3-ブタンジオール、 1,3-ブチレングリコール	107-88-0	
	DPG	ジプロピレングリコール	25265-71-8	
	エトキシジグリコール	ジエチレングリコールエチルエーテル、 エチルジグリコール	111-90-0	
	グリセリン		56-81-5	
	ジグリセロール		627-82-7	
糖類	グルコース	ブドウ糖	50-99-7	
	トレハロース	トレハロース	99-20-7	
	プルラン	プルラン、 α -グルカン	9012-72-0	
生体高分子	ヒアルロン酸	(ニワトリのトサカ等から単離される多糖類)	9067-32-7	
	コラーゲン	(動物の結合組織を構成する繊維状たんぱく質)		
	エラスチン	(動物の結合組織を構成する繊維状たんぱく質)		
	アルブミン	(卵白から得られる可溶性たんぱく質)		
	カゼインNa	カゼインナトリウム (牛乳や豆類に含まれるリンたんぱく質)	9005-46-3	
		ピロリドンカルボン酸【PCA】	98-79-3	
天然保湿因子	PCA-Na	dl-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液、 ピロリドンカルボン酸ナトリウム	28874-51-3	
	アスパラギン酸	L-アスパラギン酸	56-84-8	
	アラニン	L-アラニン	56-41-7	
	トレオニン	L-スレオニン	72-19-5	
	アルギニン	L-アルギニン	74-79-3	
	イソロイシン	L-イソロイシン	73-32-5	
	グリシン	グリシン	56-40-6	
	グルタミン酸	L-グルタミン酸	56-86-0	
	シスチン	L-シスチン	56-89-3	
	セリン	DL-セリン	302-84-1	
	セリン	L-セリン	56-45-1	
	チロシン	L-チロシン	60-18-4	
	バリン	L-バリン	72-18-4	
	ヒスチジン	L-ヒスチジン	71-00-1	
	フェニルアラニン	L-フェニルアラニン	63-91-2	
	プロリン	L-プロリン	147-85-3	
	ロイシン	L-ロイシン	61-90-5	
	グルタミン酸Na	L-グルタミン酸ナトリウム	142-47-2	
		クレアチン、N-グアニル-N-メチルグリシン	57-00-1	
		N-アセチル-L-システイン	616-91-1	
	リシンHCl	L-リシン塩酸塩	657-27-2	
その他	タウリン	アミノエチルスルホン酸	107-35-7	
	尿素		57-13-6	

4. 高分子物質

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
水溶性高分子	カルボキシメチルセルロース	【CMC】	9000-11-7	粘度調整（増粘、ゲル化）、液状安定化（乳化、分散）、泡安定化の目的で使用される。
	セルロースガム	カルボキシメチルセルロースナトリウム、水溶性セルロースエーテル、セルロースグリコール酸ソーダ	9004-32-4	
		ポバール(完全けん化品)【PVA】	9002-89-5 25213-24-5	
	PVP	ポリビニルピロリドン	9003-39-8	
		カチオン化セルロース		
生体高分子	ヒアルロン酸Na	ヒアルロン酸ナトリウム液	9067-32-7	生体由来の高分子で保湿成分として用いられる。
	コラーゲン	(動物の結合組織を構成する繊維状たんぱく質)	9007-34-5	
	アルブミン	(卵白から得られる可溶性たんぱく質)	9006-59-1	
皮膜形成高分子		ポバール(完全けん化品)【PVA】	9002-89-5 25213-24-5	皮膜形成能を有する高分子のことで、パック、ネイルエナメル、シャンプーなどに配合される。
	PVP	ポリビニルピロリドン	9003-39-8	
	ニトロセルロース	綿薬、コロジオン【NC】	9004-70-0	
		アルキド樹脂、多価アルコール・高級脂肪酸・二塩基酸の重縮合物	67989-65-5	毛髪を保護し、光沢を与える。
	セラック	セラック樹脂		
	キトサン		9012-76-4	
	キサンタンガム		11138-66-2	皮膜作用により毛髪をコーティングする。
	ジメチコン	ジメチルポリシロキサン	63148-62-9	皮膜形成能を有する高分子のことで、パック、ネイルエナメルシャンプーなどに配合される。
	ジフェニルジメチコン	ジフェニルポリシロキサン・ジメチルポリシロキサン共重合体	68083-14-7	
粉体高分子	ポリエチレン	粉末ポリエチレン	9002-88-4	製品の剤型保持や使用感触向上の機能を有する粉状の高分子物質。スクラブ剤としても用いられる。
	ナイロン	ポリアミド、ナイロン粉末	32131-17-2、 25038-54-4	
	ポリエチレンテレフタレート	ポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層粉末	25038-59-9、 9011-14-7	
無機高分子	シリカ	無水ケイ酸、二酸化ケイ素	7631-86-9、 14464-46-1	パウダー類や増粘剤、賦形剤、充填剤、無機顔料などとしてメイクアップ化粧品などに広く配合される。歯磨きの研磨剤としても用いられる。
	酸化亜鉛	亜鉛華	1314-13-2	
	マイカ	含水ケイ酸アルミニウムカリウム、雲母、セリサイト	12001-26-2	
	カオリン	含水ケイ酸アルミニウム、チャイナクレー	1332-58-7	
	タルク	含水ケイ酸マグネシウム	14807-96-6	
	ベントナイト	モンモリロナイト、モンモリロン石	1302-78-9	
	酸化チタン	二酸化チタン、チタンホワイト	13463-67-7	
	炭酸Ca	炭酸カルシウム、炭カル、炭酸石灰	471-34-1	

5. 増粘剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
水溶性高分子	カルボキシメチルセルロース	【CMC】	9000-11-7	製品の粘度を調節し、なめらかな使い心地にする働きや保湿性のために用いられる。
	ヒドロキシエチルセルロース	【HEC】	9004-62-0	
	ヒドロキシプロピルセルロース	【HPC】	9004-64-2	
	カラギーナン	カラゲニン、紅藻類抽出高分子	9000-07-1	
	グアーガム	グアーガム、グアルガム	9000-30-0	
	キサンタンガム	ザンサンガム	11138-66-2	
	セルロースガム	カルボキシメチルセルロースナトリウム、水溶性セルロースエーテル、セルロースグリコール酸ソーダ	9004-32-4	
	ポリアクリル酸Na	ポリアクリル酸ナトリウム、ポリアクリル酸ソーダ	9003-04-7	
		ポバール(完全けん化品)【PVA】	9002-89-5	
	PVP	ポリビニルピロリドン	9003-39-8	
	カルボマー	カルボキシビニルポリマー	9007-20-9	

6. 溶剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
揮発性溶剤	酢酸エチル	エチルアセテート	141-78-6	皮膜形成成分と相性が良く、適当な粘度になり乾燥速度が速いので、ネイルエナメルに用いられる。
	酢酸ブチル	ブチルアセテート	123-86-4	
	エタノール	酒精、エチルアルコール	64-17-5	香水等のフレグランスに用いられる。

7. 色材 (1)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
有機合成色素	(多数あり)	アゾ系、キサンテン系、キノリン系、トリフェニルメタン系アンスラキノン系		発色性、純度の高さから化粧品色材として適しているのが、有機系の合成色素です。中でもタール色素は様々な色合いを表現でき、その色調の豊富さからメイクアップ製品に広く使用される。
	(多数あり)	アゾ系、キサンテン系		
	(多数あり)	アゾ系、インジゴ(チオインジゴ)系、フタロシアニン系		
天然色素	カロチン	β-カロチン、カロテン	7235-40-7	動植物または微生物から抽出されるのが天然色素です。天然色素だけでは微妙な色調を出すことができませんが、自然志向や薬理効果の面から見直されている。
		紅花赤色色素、カルサミン	36338-96-2	
	コチニール	ナチュラルレッド4	1260-17-9	

7. 色材 (2)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
無機顔料	シリカ	無水ケイ酸、二酸化ケイ素	7631-86-9	鉱物性顔料とも呼ばれ、従来は天然鉱物などを粉碎して使用していたが、現在では合成無機化合物がおもに用いられる。色彩の鮮やかさでは有機顔料に劣るが耐光性、耐熱性、耐溶剤性に優れている。
		クオーツ、クリストバル石	14464-46-1	
	酸化亜鉛	亜鉛華	1314-13-2	
	マイカ	含水ケイ酸アルミニウムカリウム、雲母	12001-26-2	
	金雲母	含水ケイ酸アルミニウムカリウム、セリサイト、絹雲母	12001-26-2	
	カオリン	含水ケイ酸アルミニウム、チャイナクレー	1332-58-7	
	タルク	含水ケイ酸マグネシウム	14807-96-6	
	ベントナイト	モンモリロナイト、モンモリロン石	1302-78-9	
		C.I.ピグメントイエロー53	8007-18-9	
	酸化チタン	二酸化チタン、チタンホワイト	13463-67-7	
	炭酸Ca	炭酸カルシウム、炭カル、炭酸石灰	471-34-1	
	酸化鉄	ベンガラ、酸化第二鉄、紅柄、ベネシアンレッド	1309-37-1	
	酸化鉄	黄酸化鉄、黄色酸化鉄、フェリットエロー	12259-21-1	
	酸化クロム	クロムオキシサイドグリーン	1308-38-9	
	カーボンブラック		1333-86-4	
粉体高分子		群青、ウルトラマリン、ウルトラマリンプルー	57455-37-5	結晶が微細で光を散乱させる。
		紺青、パリスブルー、ベルリンブルー、アントワープブルー	25869-00-5	
		炭酸鉛、ピグメントホワイト1、鉛白、白鉛	1319-46-6	
	ポリエチレン	粉末ポリエチレン	9002-88-4	
パール剤	ナイロン	ナイロン末、ポリアミド	25038-54-4	光を一定方向に反射し、輝きを感じたり虹のような色を発したりする素材。
	ナイロン-66	ナイロン末、ポリアミド6	32131-17-2	
	(PET/ポリメタクリル酸メチル)ラミネート	ポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層フィルム末	25038-59-9、9011-14-7	
パール剤	Al	アルミニウム末	7429-90-5	きらきらとした点在感のある輝きを放つ材料。
	酸化チタン、酸化鉄、マイカ	黄酸化鉄被覆雲母チタン		
	魚鱗箔	(タチウオ等の鱗を精製したもの)		
ラメ剤	(PET/ポリメタクリル酸メチル)ラミネート	ポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層フィルム末	25038-59-9、9011-14-7	きらきらとした点在感のある輝きを放つ材料。
体質顔料	金雲母	含水ケイ酸アルミニウムカリウム、セリサイト、絹雲母	12001-26-2	製品の剤形を保つ働きをする。
	シリカ	無水ケイ酸、二酸化ケイ素	7631-86-9	
	タルク	含水ケイ酸マグネシウム	14807-96-6	
	炭酸Ca	炭酸カルシウム、炭カル、炭酸石灰	471-34-1	
白色顔料	酸化チタン	二酸化チタン	13463-67-7	色調調整の他に隠蔽力を調整する。
		炭酸鉛、ピグメントホワイト1、鉛白、白鉛	1319-46-6	
顔着色料		アゾ系、インジゴ(チオインジゴ)系フタロシアニン系		製品の色調を調整する。

8. 香料 (1)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
天然香料		シス-ジャスモン	488-10-8	香を付与する。
	シトラール	ゲラニアル、ネラール	5392-40-5	
		ボルネオ樟脳、竜脳	507-70-0	
	ボルネオール	d-ボルネオール、dl-ボルネオール	464-45-9、 507-70-0	
	メントール	l-メントール、l-3-p-メンタノール、5-メチル-2-イソプロピルシクロヘキサノール	2216-51-5	
		d-リモネン	138-86-3	
	オイゲノール	o-メトキシ-p-プロペニルフェノール	97-53-0	
合成香料		天然エキス、天然油(オリス油、オレンジエキス、ジャスミン油、ハッカ油、ブドウ葉エキス、ラベンダー水、レモンエキス、橙花油)		
		7-アセチル-1,1,3,4,4,6-ヘキサメチルテトラヒドロナフタレン、6-アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラリン、トナリド	1506-02-1	
	アネトール	1-メトキシ-(1又は2-プロペニル)ベンゼン、アニスカンファー	104-46-1	
		α -ペンチルシンナムアルデヒド、アミルシンナミックアルデヒド、ジャスミナール	122-40-7	
		アンスラニル酸メチル、メチルアンスラニレート	134-20-3	
	安息香酸ベンジル	ベンジルベンゾエート	120-51-4	
	安息香酸メチル	メチルベンゾエート	93-58-3	
		3-(5-イソカンフィル)-1-シクロヘキサノール、サンタレックス、サンデラ	66068-84-6	
	イソオイゲノール		97-54-1	
		イソ吉草酸エチル、エチルイソバレレート	108-64-5	
		α -メチルヨノン、イロン	79-69-6	
	ウンデカラクトン	γ -ウンデカラクトン	104-67-6	
		ウンデセナール、ウンデシレンアルデヒド	112-45-8	
		エチル3,5,5-トリメチルヘキサノエート	67707-75-9	
	エチルバニリン	3-エトキシ-4-ヒドロキシベンズアルデヒド	121-32-4	
		1,4-ジオキサシクロヘキサデカン-5,16-ジオン、エチレンドデカンジオエート、ムスクC-14	54982-83-1	
		1,4-ジオキサ-5,17-ジオキソヘプタデカン、エチレンブラシレート、エチレンウンデカンジカルボキシレート	105-95-3	

8. 香料 (2)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
合成香料		10-オキサ-ヘキサデカノリド、オキサライド	1725-01-5	香を付与する。
		カプロン酸イソアミル、ヘキサン酸イソアミル	2198-61-0	
		カプロン酸エチル、ヘキサン酸エチル	123-66-0	
		ガラクソリド、1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロペンタ-γ-2-ベンゾピラン	1222-05-5	
		l-カルボン、1,8(9)-p-メンタジエン-6-オン	6485-40-1	
		ギ酸シトロネリル	105-85-1	
	クマリン		91-64-5	
	ケイヒアルコール		104-54-1	
	ケイヒアルデヒド	シンナミックアルデヒド、3-フェニルプロペナール	104-55-2	
	ケイヒ酸エチル	エチルシンナメート	103-36-6	
	ゲラニオール		106-24-1	
		酢酸オイゲノール、アセチルオイゲノール	93-28-7	
		酢酸ジヒドロテルピニル、ジヒドロテルピニルアセテート	80-25-1	
		酢酸ジメチルベンジルカルビニル、ベンジルイソプロピルアセテート	151-05-3	
		8βH-セドラン-8-オールアセテート、酢酸セドリル	77-54-3	
		酢酸テルピニル	80-26-2	
		酢酸トリシクロデセニル	5413-60-5	
		酢酸ブチルシクロヘキシル	32210-23-4	
	酢酸ベンジル	ベンジルアセテート	140-11-4	
	酢酸リナリル	リナリルアセテート	115-95-7	
		サリチル酸イソアミル	87-20-7	
	サリチル酸メチル		119-36-8	
	サリチル酸ベンジル	ヒドロキシ安息香酸ベンジル	118-58-1	
	シクラメンアルデヒド	2-メチル-3-(p-イソプロピルフェニル)プロピオンアルデヒド	103-95-7	
		シクロヘキサデセノン、5-シクロヘキサデセン-1-オン	37609-25-9	
		オクタヒドロクマリン、シクロヘキシルラクトン	4430-31-3	
		シクロペンタデカノン	502-72-7	
		cis-3-ヘキセノール、シス-ヘキセノル、青葉アルコール	928-96-1	
	シトロネラール	3,7-ジメチル-6-オクテナール、ロジナール	106-23-0	

8. 香料 (3)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
合成香料		シトロネリルニトリル	51566-62-2	香を付与する。
	シトロネロール	3,7-ジメチル-6-オクテン-1-オール	106-22-9	
	ジヒドロジャスモン酸メチル	メチル(2-ペンチル-3-オクソ-シクロペンチル)アセテート	24851-98-7	
		ジヒドロジャスモン、1-メチル-2-ペンチル-3-オキソ-1-シクロペンテン	1128-08-1	
		3,7-ジメチル-1-オクテン-7-オール、ジヒドロミルセノール	18479-58-8	
		ジフェニルオキサイド、ジフェニルエーテル	101-84-8	
		ジメチルベンジルカルビノール	100-86-7	
	テルピネオール	ターピネオール、 α -テルピオネオール	8000-41-7	
		β -ナフチルエチルエーテル	93-18-5	
		β -ナフチルメチルエーテル	93-04-9	
	バニリン		121-33-5	
	ヒドロキシシトロネラル	7-ヒドロキシ-3,7-ジメチルオクタン-1-オール	107-75-5	
		リラル、 1-ホルミル-4-(4'-ヒドロキシ-4'-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン	31906-04-4	
	フェネチルアルコール	β -フェニルエチルアルコール	60-12-8	
		フェニル酢酸エチル、エチル α -トルイル酸	101-97-3	
		リリアル、2-メチル-3-(4-tert-ブチルフェニル)プロピオンアルデヒド	80-54-6	
		ヘキシルシンナミックアルデヒド、ジャスモナル	101-86-0	
	ヘリオトロピン	ピペロナル	120-57-0	
	ベンジルアルコール	フェニルカルビノール、フェニルメタノール、 α -ヒドロキシトルエン	100-51-6	
	メチルアセトフェノン	p-メチルアセトフェノン、4-アセチルトルエン	122-00-9	
		p-トリルアセトアルデヒド、 p-メチルフェニルアセトアルデヒド	104-09-6	
		N-メチルアントラニル酸メチル、メチル安息香酸2-メチルアミノ	85-91-6	
		メチルヨノン、4-{2',6',6'-トリメチル-1' (又は2')-シクロヘキセン-1'-イル}-ブタン-2-オン	1335-46-2	
		α -ヨノン	8013-90-9	
		ローズフェノン	90-17-5	
香料合		調合香料 (天然香料や合成香料のブレンド)		香を付与する。

9. 紫外線防止剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
紫外線吸収剤	エチルPABA	パラアミノ安息香酸エチル、エチルアミノベンゾエート、アネスタミン、ベンゾカイン、4-アミノ安息香酸エチル	94-09-7	紫外線防止剤（紫外線防御剤、サンスクリーン剤）は、紫外線を効果的に吸収する有機化合物の紫外線吸収剤と、紫外線を有効に反射・散乱させる粉体の紫外線散乱剤の2種類に大別され、目的によって種類と量を調整して配合される。
	オキシベンゾン-1	ジヒドロキシベンゾフェノン、4-ベンゾイル-1,3-ベンゼンジオール、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン	131-56-6	
		4-ベンゾイル-3-ヒドロキシ-1-メトキシベンゼン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン	131-57-7	
		2-ヒドロキシ-4-オクチルオキシベンゾフェノン、ベンゾフェノン-12	1843-05-6	
		2-ヒドロキシ-4-ドデシルオキシベンゾフェノン、	2985-59-3	
		2-ヒドロキシ-4-ウンデシルオキシベンゾフェノン、	3457-22-5	
	オキシベンゾン-6	4-(2-ヒドロキシベンゾイル)-3-ヒドロキシ-1-メトキシベンゼン、ヒドロキシジメトキシベンゾフェノン	131-53-3	
		4-メトキシベンゼンアクリル酸2-エチルヘキシル、パルソールMCX	5466-77-3	
	サリチル酸フェニル	フェニルサリシレート、ヒドロキシ安息香酸フェニル	118-55-8	
		2-ヒドロキシ安息香酸イソブチル、サリチル酸イソブチル	87-19-4	
		2-ヒドロキシ安息香酸2-エチルヘキシル、サリチル酸2-エチルヘキシル	118-60-5	
		2-ヒドロキシ安息香酸エチル、サリチル酸エチル	118-61-6	
		p-tert-ブチルフェニルサリシレート、サリチル酸4-tert-ブチルフェニル	87-18-3	
		p-オクチルフェニルサリシレート、サリチル酸4-tert-オクチルフェニル	2553-08-4	
	ホモサレート	サリチル酸ホモメンチル	118-56-9	
	t-ブチルメトキシジベンゾイルメタン	4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、1-(4-t-ブチルフェニル)-3-(4-メトキシフェニル)プロパン-1,3-ジオン、	70356-09-1	
		ジメトキシベンジリデンオキソイミダゾリジンプロピオン酸2-エチルヘキシル		
紫外線散乱剤	オリザノール	γ-オリザノール、フィルラ酸エステル	11042-64-1	紫外線防御効果と酸化防止効果がある。
	酸化チタン	二酸化チタン、チタンホワイト	13463-67-7	紫外線を乱反射させて逃がす。
	酸化亜鉛	亜鉛華	1314-13-2	

10. 抗菌剤 (1)

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
防腐剤	安息香酸	ベンゼンカルボン酸	65-85-0	外部から汚染してくる微生物の増殖を抑制し、経時とともに死滅させ、製品の劣化を防止する。
	サリチル酸	2-ヒドロキシ安息香酸	69-72-7	
		2-ヒドロキシ安息香酸イソブチル、サリチル酸イソブチル	87-19-4	
		2-ヒドロキシ安息香酸プロピル、サリチル酸プロピル	607-90-9	
		2-ヒドロキシ安息香酸ブチル、サリチル酸ブチル	2052-14-4	
		2-ヒドロキシ安息香酸エチル、サリチル酸エチル	118-61-6	
		2-ヒドロキシ安息香酸イソプロピル、サリチル酸イソプロピル	607-85-2	
	エチルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸エチル	120-47-8	
	プロピルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸プロピル	94-13-3	
	イソプロピルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸イソプロピル	4191-73-5	
	ブチルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸ブチル	94-26-8	
	イソブチルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸イソブチル	4247-02-3	
	ベンジルパラベン	4-ヒドロキシ安息香酸ベンジル	94-18-8	
	ソルビン酸	2,4-ヘキサジエン酸	110-44-1	
	ソルビン酸K	ソルビン酸カリウム、ソルビン酸カリ	24634-61-5	
	グルコン酸クロルヘキシジン	クロルヘキシジンニ(D-グルコン酸)、アバシル、ヒビスクラブ	18472-51-0	
	フェノキシエタノール	2-フェノキシエタノール、エチレングリコールモノフェニルエーテル、フェニルセロソルブ	122-99-6	
	デヒドロ酢酸Na	3-アセト-6-メチル-2-ピロノンナトリウム塩、デハイドロ酢酸ソーダ【DHA-S】	4418-26-2	
殺菌剤		N-(3,4-ジクロロフェニル)-N'-(4-クロロフェニル)尿素【TCC】	101-20-2	短時間に菌を死滅もしくは減少させる効果をもちにきび用製品やデオドラント化粧品に配合される。
		ドデシルベンジルジメチルアンモニウムクロリド	139-07-1	
		アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド	61789-71-7	
	ベンゼトニウムクロリド	ベンジルジメチル{2-[2-(p-1,1,3,3-テトラメチルブチルフェノキシ)エトオキシ]エチル}アンモニウムクロリド、ベンゼトニウムクロリド、フェメロール、塩化ベンゼトニウム	121-54-0	
	メチルベンゼトニウムクロリド	塩化メチルベンゼトニウム	25155-18-4	
	ジンクピリチオン	亜鉛ビス(1,2-ジヒドロ-2-チオキノピリジン-1-オラート)、ピリチオン亜鉛	13463-41-7	

10. 抗菌剤（2）

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
殺菌剤		1,1-（ヘキサン-1,6-ジイル）ビス [5-（4-クロロフェニル）ビグアニド]、 フィメール、ヘキサドール	55-56-1	短時間に菌を死滅もしくは減少させる効果をもちにきび用製品やデオドラント化粧品に配合される。
		1,1'-ヘキサメチレン [5-（p-クロロフェニル）ビグアニド]・二塩酸塩、 塩酸クロルヘキシジン	3697-42-5	
	PG	プロピレングリコール	57-55-6	
	ヒノキチオール	2-ヒドロキシ-4-イソプロピル- 2,4,6-シクロヘプタトリエン-1-オン、 ツヤプリシン	499-44-5	
	オクトピロクス	ピロクトンオラミン	68890-66-4	

11. 酸化防止剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
酸化防止剤	BHT	3,5-ジ-tert-4-ヒドロキシトルエン、2,6-ジ-tert-ブチル-p-クレゾール【DBPC】	128-37-0	酸化防止剤は化粧品や食品などの品質を保持するために用いられる。化粧品に使われる原料の中には、空気中の酸素などによって変質しやすい物質が含まれている。このため化粧品を酸素から守る働きのある酸化防止剤が必要になる。
	没食子酸プロピル	3,4,5-トリヒドロキシ安息香酸プロピル、プロピルガレート	121-79-9	
	没食子酸オクチル		1034-01-1	
	BHA	ブチル化ヒドロキシアニソール【BHA】	25013-16-5	
	トコフェロール	ビタミンE	10191-41-0	
	アスコルビン酸	ビタミンC	50-81-7	

12. キレート剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
キレート剤	EDTA	エチレンジアミン四酢酸	60-00-4	化粧品に混入された微量な金属イオンが原因で、油性原料の酸化を促進し変臭、変色したり、他の薬剤の作用を阻害したり、あるいは化粧水の沈殿を生じさせたりすることがある。こうした微量の金属イオンを不活性化する物質が金属イオン封鎖剤（キレート剤）である。
	EDTA-2K	エデト酸二カリウム二水塩	25102-12-9	
	EDTA-2Na	エデト酸二ナトリウム	139-33-3	
	EDTA-3Na	エデト酸三ナトリウム	150-38-9	
	EDTA-4Na	エデト酸四ナトリウム	64-02-8	
	EDTA-4Na	エデト酸四ナトリウム二水塩	10378-23-1	
	EDTA-4Na	エデト酸四ナトリウム四水塩	13235-36-4	
	クエン酸	シトロニン酸、オキシトリカルボリックアシッド、2-ヒドロキシ-1,2,3-プロパントリカルボン酸	77-92-9	
		クエン酸一水塩	5949-29-1	
	フィチン酸	イノシトール六リン酸	83-86-3	
	エチドロン酸	ヒドロキシアタンジホスホン酸、1-ヒドロキシアチリデン-1,1-ジホスホン酸	2809-21-4	

13. pH調整剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
アルカリ剤	アンモニア水		1336-21-6	化粧品のpHを保つ働きや原料の配合の際などに使用する。
	エタノールアミン	エタノールアミン、エチロールアミン、2-アミノエタノール、2-ヒドロキシエチルアミン、コラーミン	141-43-5	
	DEA	ジエタノールアミン、ジエチロールアミン、2,2'-イミノジエタノールアミン、ビス(ヒドロキシ)エチルアミン	111-42-2	
	TEA	トリエタノールアミン、トリエチロールアミン、トリヒドロキシトリエチルアミン【TEA】	102-71-6	
	AMP	2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール【AMP】	124-68-5	
	モルホリン		110-91-8	
	水酸化Na	水酸化ナトリウム、苛性ソーダ	1310-73-2	
酸化剤	クエン酸	シトロン酸、オキシトリカルボリックアシッド、2-ヒドロキシ-1,2,3-プロパントリカルボン酸	77-92-9	
	酒石酸		87-69-4	
	酢酸Na	酢酸ナトリウム、酢酸ソーダ、酢曹	127-09-3	
	グリコール酸	ヒドロキシ酢酸	79-14-1	
	乳酸	2-ヒドロキシプロピオン酸	598-82-3	

14. 酸化剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
酸化剤		過酸化水素	7722-84-1	毛髪のメラニンの脱色や染毛した毛髪に定着した色の脱色。
	臭素酸Na	臭素酸ナトリウム、ブロム酸ソーダ	7789-38-0	

15. 還元剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
還元剤	チオグリコール酸	メルカプト酢酸	68-11-1	毛髪構造を緩める作用がある。
		DL-システイン	3374-22-9	
	亜硫酸Na	亜硫酸ソーダ、無水亜硫酸ナトリウム	10102-15-5	

16. 浸透剤

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
浸透剤	ベンジルアルコール	フェニルカルビノール、フェニルメタノール、 α -ヒドロキシトルエン	100-51-6	色素の毛髪への浸透性を高める作用がある。

17. 有効成分（1）

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴	
美白剤	アスコルビン酸	ビタミンC	50-81-7	美白剤は「日焼けなどによるメラニン（褐色あるいは黒色の色素）の生成を抑制し、その沈着を予防する」ことを目的とする化粧品や医薬部外品に配合される美容成分である。つまり、日焼けの後に肌が黒くなったり、シミやソバカスが増えて、肌の美しさが損なわれるのを防ぐための成分である。	
		5-ヒドロキシ-2-（ヒドロキシメチル）-4H-ピラン-4-オン、コウジ酸	501-30-4		
		エラグ酸、エラギ酸、2,3,7,8-テトラヒドロ-[1]-[5,4,3-cde]ベンゾピラン-5,10-ジオン	476-66-4		
		ヒドロキノン-β-D-グルコシド、4-ヒドロキシフェニル-β-D-グルコシピラノシド、アルブチン	497-76-7		
		4-ブチル-1,3-ベンゼンジオール、ルシノール、4-n-ブチルレゾルシノール	18979-61-8		
		植物エキス（植物の根や葉、樹皮などから溶媒で抽出したもの）			
血行促進剤	トコフェロール	ビタミンE	10191-41-0	発毛促進や脱毛予防のため育毛剤に配合する成分で、毛根刺激剤と血管拡張剤がある。また温浴効果を高めるために用いられる浴用剤として二酸化炭素や生薬エキスが用いられる。	
	トウガシエキス	（植物の根や葉、樹皮などから溶媒で抽出したもの）			
	トウガラシエキス				
	トウガラシ果実エキス				
	センブリエキス				
	ニンニクエキス				
	オタネニンジンエキス				
	二酸化炭素	炭酸ガス	124-38-9		
抗酸化剤	アスコルビン酸	ビタミンC	50-81-7	皮脂の酸化を抑える。	
	トコフェロール	ビタミンE	10191-41-0		
	カロチン	β-カロチン、カロテン	7235-40-7		
		エピカテキン、エピカテコール、3,3',4',5,7-フラバンペンタノール	490-46-0		
	グリチルレチン酸	β-グリチルレチン酸	1449-05-4		

17. 有効成分（2）

小分類	表示名称	その他の名称【略称】	CAS RN	主な用途・役割・特徴
抗炎症剤	アラントイン	1-(2,5-ジオキソイミダゾリジン-4-イル)-尿素、アラントイン	97-59-6	炎症を抑制する。
	アミノカプロン酸	ε-アミノカプロン酸、6-アミノヘキサン酸	60-32-2	
		l-メントール、l-3-p-メンタノール、5-メチル-2-イソプロピルシクロヘキサノール	2216-51-5	かゆみを抑制する。
		プロビタミンB5	81-13-0	フケを抑制する。
	パントテン酸Ca	パントテン酸カルシウム、パントテン酸石灰	137-08-6	
	グリチルレチン酸	α-グリチルレチン酸、エノキシロン	471-53-4	炎症を抑制する。
		ステアリルグリシルレチネート グリシルレチン酸ステアリル	13832-70-7	
		グリチルレチン酸二カリウム	68797-35-3	
	塩化リゾチーム		9066-59-5	
制汗物質	塩化Al	塩化アルミニウム	7446-70-0	汗を抑えるために、汗孔のたんぱく質に結合し、凝固収縮させて、汗孔を小さく抑える物質。
	アラントイン	1-(2,5-ジオキソイミダゾリジン-4-イル)-尿素、5-ウレイドヒダントイン	97-59-6	
	硫酸亜鉛		7733-02-0	
	フェノールスルホン酸亜鉛	パラフェノールスルホン酸亜鉛	127-82-2	
		ビス(4-ヒドロキシベンゼンスルホン酸)亜鉛	—	
収れん剤	クエン酸	シトロン酸、オキシトリカルボリックアシッド、2-ヒドロキシ-1,2,3-プロパントリカルボン酸	77-92-9	肌を引き締めたり、発汗を抑える作用を有する。アストリンゼントとも呼ばれる。
	酒石酸		87-69-4	
	コハク酸	エチレンジカルボン酸	110-15-6	
	乳酸	2-ヒドロキシプロピオン酸	598-82-3	
	グリコール酸	グリコール酸	79-14-1	
	レブリン酸	4-ケト吉草酸	123-76-2	
	酸化亜鉛	亜鉛華	1314-13-2	
	硫酸（Al/K）	硫酸アルミニウムカリウム12水塩、ミョウバン、カリウムミョウバン	7784-24-9	
	リン酸アンモニウム		7722-76-1	
	アラントイン	1-(2,5-ジオキソイミダゾリジン-4-イル)-尿素、5-ウレイドヒダントイン	97-59-6	
	水酸化Al	水酸化アルミニウム、アルミニウムヒドロキシド、アルミゲル	21645-51-2	

19. より詳しい情報の入手先

本冊子にはその物質の化学式やいろいろな特性（有害性や物理的な危険性など）は記載していませんが、現在インターネット上では名称やCAS RN等より簡単にこれらを調べることができます。下記にウェブサイトで利用できる日本語の情報を記載しました。

しかし、これらのサイトから得られる情報はほとんど単一物質の情報であり、製品中に含まれる量やどれだけ体に取り込まれたかによって、その影響は異なりますので、注意が必要です。

独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター

化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）

https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop

国立医薬品食品衛生研究所（NIHS）の国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版

<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>

環境省 化学物質の環境リスク評価書

<http://www.env.go.jp/chemi/risk/index.html>

Column 1

パッチテスト

「私は、アレルギー体質じゃないから」と言っている、万人に合う化粧品はありません。

アレルギー体質の人はもちろん、アレルギー体質でない人も、ヘアカラー（半永久染毛剤）を使用する時や化粧品を変えるときはパッチテストを行いましょう。

〈パッチテストのやり方^{（注）}〉

テストしたい化粧品などを腕の内側等の目立たない部分の皮膚に10円玉ぐらい大きさに薄く塗ります。その部分をぬらしたり、こすったりしないよう2日（48時間）そのままにして、（その時、塗布部に発疹、発赤、かゆみ、水泡、刺激などの皮膚の異常があった場合には時間を待たず手などでこすらないで直ちに洗い落として下さい）その部分が赤くなっていたら、その化粧品はその人に合わないと言えます。合わない時は、その化粧品の使用は控えましょう。

（注）日本ヘアカラー工業会のホームページにてパッチテストの動画が公開されています。https://www.jhcia.org/advice_patch_test/

Column 2

顔料と染料は、どう違うのですか？

顔料と染料は、化粧品に配合される色素の種類です。

顔料は、水や油などの溶剤に溶けない色素で、普通は粉碎し、肌に異物感を与えない微粒子の粉末原料にして配合されます。水や油に溶けないので、汗や皮脂にもにじみにくく、肌に色が染まってしまうことはありません。

染料は、水や油などの溶剤に溶ける性質をもった色素で、染色性があります。

化粧品に関連する 法規制等

(IV) 化粧品に関連する法規制等

1. 法規制

1-1. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (薬機法) (所管官庁：厚生労働省)

化粧品に関連する最も重要な法律は薬機法です。

薬機法は医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器について、その品質、有効性及び安全性の確保を主な目的として、製品そのもの、それを製造（輸入販売を含む）する場所および製品の表示事項などについて規制しています。

(1) 化粧品と医薬部外品

薬機法には、化粧品の定義が以下のとおり示されています。

化粧品とは、人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、又は皮膚もしくは毛髪をすこやかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類する方法で使用されることが目的とされている物で、人体に対する作用が緩和なものをいう。

しかし、薬機法では、化粧品及び医薬品とは区別して、さらに医薬部外品という範疇があります。薬機法における医薬部外品の定義は以下のとおりです。

医薬部外品とは、次に掲げる物であって、人体に対する作用が緩和なものをいう。

- 一 次のイからハまでに掲げる目的のために使用される物であって機械器具等でないもの
 - イ 吐きけその他の不快感又は口臭若しくは体臭の防止
 - ロ あせも、ただれ等の防止
 - ハ 脱毛の防止、育毛または除毛
- 二 人又は動物の保護のためにするねずみ、はえ、蚊、のみその他これらに類する生物の防除のために使用される物であって機械器具等でないもの
- 三 前項第二号又は第三号に規定する目的のために使用される物のうち、厚生労働大臣が指定する物

医薬部外品のうち、今回のテーマに関連するもののみを掲げると次のようになります。

〈医薬部外品〉

- 吐き気その他不快感または口臭若しくは体臭の防止（口中清涼剤、デオドラント製品）
- あせも、ただれ等の防止（てんか粉、ベビーパウダー）
- 脱毛の防止、育毛又は除毛（育毛剤、養毛剤、除毛剤）
- 衛生上の用に供することが目的とされている綿類（生理処理用品その他紙綿類）
- 染毛剤
- パーマネント・ウェーブ用剤

- 浴用剤
- 肌荒れ防止、ニキビ防止、美白、紫外線防止、皮膚の殺菌など、薬機法で医薬部外品として認められる効能・効果を持ち、かつ、化粧品と同様の使用目的・使用方法を持つ製品（薬用化粧品）

（2）薬機法における化粧品及び医薬部外品の成分表示

化粧品を製造したり、販売したりするためには、薬機法を守らなければなりません。情報公開の一環としてこの薬機法（当時は薬事法）が2001年に改正され、化粧品に全成分表示することが義務づけられました。化粧品会社は企業責任のもとに安全性を充分確認して、広く原料を選択して配合しなければなりません。消費者も自分の責任で表示をチェックして、化粧品を選ぶ必要が出てきたわけです。

薬用化粧品を含む医薬部外品は、薬機法の中で「有効成分の名称」及び「厚生労働大臣の指定する成分を含有する医薬部外品にあつては、その成分の名称」を表示することが求められています。

※：平成12年厚生労働省告示第332号参照

薬用クリーム ○○

医薬部外品

有効成分：塩酸トコフェロール、トコフェロール、BHT

容量：60g

株式会社○○○

東京都渋谷区西原 03-0000-0000

ハンドクリーム △△

全成分：水、ミネラルオイル、ワセリン、グリセリン、水添ポリイソブテン、シクロメチコン、マイクロクリスタリンワックス、ラノリンアルコール、パラフィン、スクワラン、ホホバ油、オレイン酸デシル、オクチルドデカノール、ジステアリン酸Al、ステアリン酸Mg、硫酸Mg、クエン酸、安息香酸Na、香料

標準重量：85g

株式会社△△△ 東京都渋谷区東原 03-0000-0000

1-2. 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法） （所管官庁：経済産業省、厚生労働省、環境省）

化審法は、人の健康及び生態系に影響を及ぼすおそれがある化学物質による環境の汚染を防止することを目的に、昭和48年に制定されました。新たに化学物質を製造・輸入する前にその安全性を審査することで、難分解性（環境中で分解されにくいこと）、高蓄積性（動物の体内に蓄積しやすいこと）、長期毒性（長期間の暴露により有害な影響が出ること）を有する化学物質について製造・輸入、使用などを規制しています。

現在は、新規化学物質の事前審査に、上市後の化学物質に関する継続的な管理措置及び化学物質の性状等に応じた規制及び措置を加えた3つの部分から構成されています。

NITE 化審法関連情報 https://www.nite.go.jp/chem/kasinn/kasinn_index.html

2. 工業会等の自主基準

2-1. 医薬部外品の成分表示に係る日本化粧品工業連合会の自主基準

日本化粧品工業連合会では、医薬部外品を対象とした成分表示に係る自主基準を定めています。成分表示の対象とする医薬部外品は、①腋臭防止剤、②てんか粉類、③育毛剤（養毛剤）、④除毛剤、⑤薬用化粧品（薬用石けんを除く）、⑥忌避剤の6種類です。表示を行う成分の範囲は、原則として医薬品の承認書に記載された全成分としていますが、企業秘密成分については、企業の判断で表示しないことが出来るとしています。

表示を行う成分の名称については、承認書記載の成分名を原則としていますが、別名、簡略名での記載も可能です。表示すべき全成分は「有効成分」及び「その他の成分」の2グループに分けて表示されます。

※日本化粧品工業連合会ホームページ「医薬部外品の成分表示に係る日本化粧品工業連合会の基本方針」参照

Column 3

紫外線とその防止効果（SPF及びPA）について

紫外線は波長が100～400nmの範囲の電磁波で、太陽光線に含まれています。

紫外線は地表に届く光の中で最も波長の短いもので、波長の違いによって「UVA」＝紫外線A波、「UVB」＝紫外線B波、「UVC」＝紫外線C波、の3種類に分類されます。「UVC」はオゾン層によって吸収されて、地上には到達しません。

UVA（320～400nm、紫外線A波）

UVB（280～320nm、紫外線B波）

UVC（100～280nm、紫外線C波）

（注）UVA、UVB、UVCの分け方には、いくつかの定義があります。

- 「UVA」は、日ざしを浴びた後に、肌をすぐ黒くする紫外線です。雲や窓ガラスなども通過して肌の奥深く真皮まで届き、シワやタルミなど肌の光老化を促す原因となります。
- 「UVB」は主に表皮に強く作用して、日ざしを浴びた数時間後に、肌に赤く炎症を起こす紫外線です。メラニンを増加させて日やけによるシミ・ソバカスの原因を作ります。こうした日やけのくり返しも光老化につながります。

紫外線防止効果の目安として、SPFとPA分類があります。

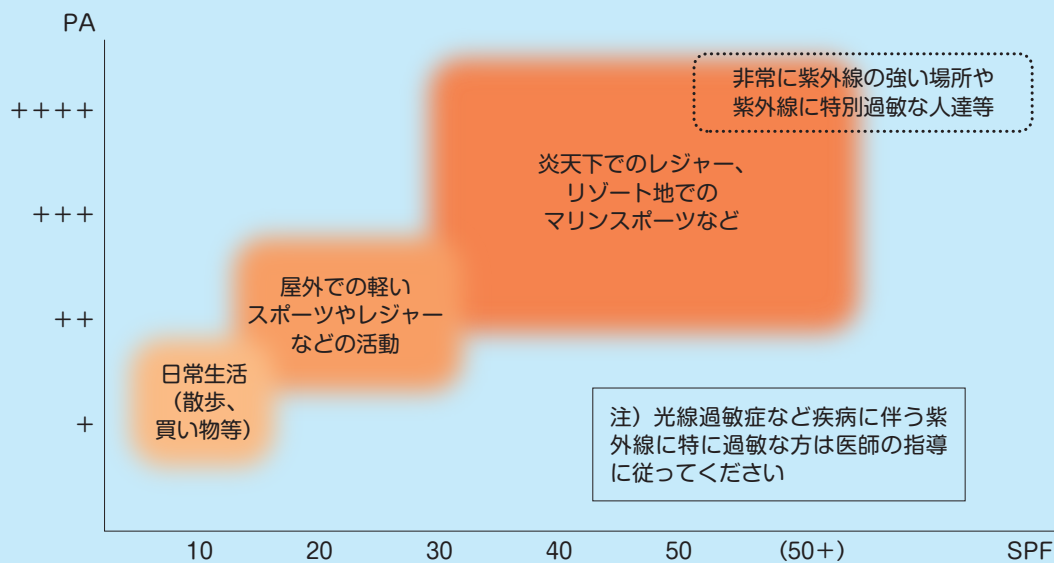
SPF（Sun protection factor）：

SPFは主としてUVBによるサンバーン（赤くなる日やけ）の防止効果を表し、数値が大きいほどサンバーンの防止効果が高くなります。しかし、SPFが50程度であれば紫外線の強い場所や紫外線に過敏な人であってもUVBによる炎症を防止できるとの考えから、SPFが50より有意に高い場合には「SPF50+」と表示しています。

PA（Protection grade of UVA）：

UVAによる短時間で皮膚が黒くなる反応（持続型即時黒化）を指標にしたUVAの防御効果を表しており、「PA+」（UVA防止効果がある）、「PA++」（UVA防止効果がかなりある）、「PA+++」（UVA防止効果が非常にある）、「PA++++」（UVA防止効果が極めて高い）のいずれかで表示され、UVA防止効果は「+」が多くなるほど高いことを示しています。

■ 日本化粧品工業連合会の目安



日本化粧品工業連合会編『紫外線防止用化粧品と紫外線防止効果』より

図 生活シーンに合わせた紫外線防止化粧品の選び方

※日本化粧品工業連合会ホームページ「紫外線編」

<https://www.jcia.org/user/public/uv/> 参照

出典

鈴木一成、朝田康夫監修（2011）「コスメチックQ&A事典（全面改訂最新版）」中央書院

日本化粧品技術者会編（2003）「化粧品事典」

日本化粧品工業連合会（2017）「化粧品等の適正広告ガイドライン」

日本化粧品工業連合会ホームページ「紫外線についての基礎知識」

「紫外線の肌への影響」

「紫外線防止の基本」

「気になる紫外線用語CHECK！」

日本ヘアカラー工業会ホームページ「ヘアカラーリングABC」（<https://www.jhcia.org/>）

光井武夫編（2009）「新化粧品学（第2版）」

福井寛（2017）「トコトンやさしい化粧品の本」

皆川基、藤井富美子、大矢勝編「洗剤・洗浄百科事典」

索引

索引

アルファベット

A

【ACH】.....29

C

【CAS】.....30

CAS Registry Numbers.....30

CAS RN.....30,48

CAS登録番号.....30

Chemical Abstracts Service.....30

N

【NMF】.....24

natural moisturizing factor.....24

P

【PA】.....9,54,55

pH調整剤.....20,27,45

protection grade of UVA.....9,54

S

【SPF】.....9,54,55

【SS結合】.....14

sun protection factor.....9,54

U

【UVA】.....54

【UVB】.....54

【UVC】.....54

B(β)

β-カロチン.....25,36,46

五十音

あ

アイシャドー.....11,19

アイブロウ.....11,19

アイメークアップ.....11,19

アイメークアップ化粧品.....11

アイライナー.....11,19

アウトバストाइプ.....20

アウトバストリートメント.....13

亜鉛塩.....29

亜鉛華.....29,35,37,41,47

あせも.....3,17,51

アミノ酸.....29

アミノ酸系界面活性剤.....12

アミノ酸類.....24

アラントインクロルヒドロキシアルミニウム.....29

アルカリ剤.....14,20,45

アルカリ性.....16

アルキド樹脂.....12,35

アルコール.....17,21

アルコール水溶液.....15

アルコールスプレー.....16

アルミニウム.....26,37

アルミニウム塩.....29

泡状整髪剤.....13

泡タイプ.....9

い

イオウ.....29

育毛剤.....3,4,15,20,28,46,51,53

一時染毛料.....14

医薬品.....51

医薬部外品.....3,4,12,14,15,16,18,20,21,28,46,51,52,53

陰イオン界面活性剤.....12,16

インバストाइプ.....20

インバストリートメント.....13

う

雲母チタン.....26

え

永久染毛剤.....14,20,27

腋臭防止剤.....3,4,16,29,53

液状ファンデーション.....10

液体洗浄剤.....16

エステル油	23
エタノール	16,17,18,21,25,36
エッセンス	8,18
エナメル	12
エモリエント	8,9,18,31
エラストマーゼ抑制剤	28
エラスチン	24,34
塩化アルミニウム	29,47
塩化ベンザルコニウム	26,32
塩化ベンゼトニウム	26,42
炎症	29,47,54

お

オイル	11
オウゴン	29
黄柏	29
黄連	29
オーデコロン	4,17,21
オードトワレ	17,21
オクトピロクス	12,26,43
白粉	10,11,19
オリーブ油	23,31

か

カーボンブラック	25,37
界面活性剤	9,12,14,17,18,20,21,23,30
カオリン	25,35,37
角質溶解剤	28,29
過酸化水素	14,27,45
化審法	53
加水分解コラーゲン	13
可塑剤	12
カチオン化セルロース	12,13,35
可溶性コラーゲン	24,34
カラトリートメント	15
カラーリンス	15
カルサミン	25,36
カルボキシメチルセルロース	24,36
還元剤	14,20,27,45
官能の特徴付与原料	23
顔料	19,49

き

基剤原料	23
揮発性用剤	12,19,36
忌避剤	53
起泡補助剤	12
局所刺激剤	15

キレート剤	27,44
金属イオン封鎖剤	27,44
金属塩	29

く

クエン酸	29,44,45,47
口紅	11,19
クリームタイプ	11
クリームファンデーション	10
クレンジング	8,18
クレンジングクリーム	8,18
クロルヒドロキシアルミニウム	29
クロロフィル	25
クロロヘキシジン	26
グンジョウ	25

け

化粧下地	8,10,19
化粧水	8,18,27,34,44
化粧石けん	7
血行促進剤	15,17,20,21,46
研磨剤	17,24,35

こ

抗炎症剤	15,20,28,29,47
高起泡性界面活性剤	7
高起泡性低刺激性界面活性剤	18
高級アルコール	13,23,31
高級脂肪酸	23
高級脂肪酸塩	18,21,32
抗菌剤	16,20,21,26,42,43
抗酸化剤	28,29,46
硬水	4,17,21,25,36
合成界面活性剤	16
合成高分子	24
合成香料	26,38,39,40
合成色素	25
合成染料	25
酵素	21
抗男性ホルモン剤	15
口中清涼剤	3,51
高分子化合物	24
高分子物質	20,24
香味剤	17
香料	16,17,21,26,38,39,40
固形ファンデーション	10
小じわ防止	8
コラーゲン	28,34,35

コラゲナーゼ抑制剤.....	28
コレステロール.....	23
コンディショナー.....	12
コンディショニング.....	13,23,31
コンディショニング成分.....	13
コンパー.....	16

さ

細胞賦活剤.....	15,28
酢酸エチル.....	25,36
殺菌剤.....	20,21,26,28,29,42,43
サリチル酸.....	29
酸.....	14
酸化亜鉛.....	25,29,35,37,41,47
酸化安定剤.....	14
酸化剤.....	14,15,20,27,45
酸化染料.....	27
酸化チタン.....	25,35,37,41
酸化鉄.....	25,37
酸化鉄被覆雲母チタン.....	26
酸化防止剤.....	27,44
サンスクリーン剤.....	26,41
酸性ムコ多糖類.....	24

し

仕上用化粧品.....	4
紫外線.....	7,9,0,18,19,26,28,54
紫外線A波.....	54
紫外線B波.....	54
紫外線C波.....	54
紫外線吸収剤.....	26,41
紫外線散乱剤.....	10,19,26,41
紫外線防御剤.....	26,41
紫外線防止.....	18,52
紫外線防止化粧品.....	9,18,55
紫外線防止効果.....	54
紫外線防止剤.....	9,18,26,28,41
色材.....	10,11,12,19,25,36,37
色素.....	15
シクロメチコン.....	23
システイン.....	14
ジスルフィド結合.....	14
湿潤剤.....	17
脂肪酸.....	23,31
ジメチルポリシロキサン.....	23,31,35
弱酸性石けん.....	16
シャンプー.....	12,13,15,20,23,24,35
臭素酸ナトリウム.....	14,27,45

充填剤.....	24,35
柔軟化粧品.....	8
収れん化粧品.....	8
収れん剤.....	18,29,47
酒石酸.....	29,45,47
消臭剤.....	16
植物エキス.....	17,28
除毛剤.....	3,4,51,53
シリカ.....	24,35,37
シリコーン.....	16
シリコーンオイル.....	23
シリコーン油.....	12,13,31
しわ防止剤.....	28
ジンクピリチオン.....	12,26,42
新指定医薬部外品.....	3
真珠光沢顔料.....	25,26
身体洗浄剤.....	16,21
身体洗浄用化粧品.....	16
シンデッドパー.....	16
浸透剤.....	15,20,27,46

す

水分吸収剤.....	29
水溶性高分子.....	18,20,24,35
スキンケア化粧品.....	4,7,18
スクラブ剤.....	7,18,24,35
スクワラン.....	23,31
ステアリン酸.....	23,31
スティック.....	11,16

せ

制汗物質.....	16,21,29,47
整肌用化粧品.....	7,8,18
清浄効果.....	8
生体高分子.....	20,24,34,35
整髪剤.....	13,20
整髪用化粧品.....	20
セージ.....	29
セタノール.....	23,31
石けん.....	7,16,18,21,32
洗顔クリーム.....	7,18
洗顔フォーム.....	7,18
洗顔用石けん.....	7,18
洗顔料.....	7,8,18,23
センキュウ.....	17
洗浄剤.....	23
洗浄用化粧品.....	7,8,12,18,20
全成分表示.....	3,52

洗髪用化粧品	12
染毛	15
染毛剤	3,14,20,51
染毛料	14
染料	14,20,49

そ

増粘剤	14,20,25,35,36
-----------	----------------

た

タール色素	25,36
第4級アンモニウム塩	26
耐硬水性	16
体質顔料	10,19,25,37
多価アルコール類	24,34
多孔性高分子	29
脱色剤	14,15,20,27
脱染剤	14,15,20,27
タルク	10,16,24,25,29,35,37
炭化水素	23
炭酸ガス	17,46
炭酸カルシウム	17,35,37

ち

チークカラー	11
チオグリコール酸	14,27,45
チオ乳酸	14
チック	13
着色顔料	10,11,19,25
着色剤	21,25
中性脂肪	23
長鎖アルキル第四級アンモニウム塩	12
長鎖脂肪酸	16
超微粒子粉体	26
鎮痒剤	29

て

手洗い用固形石けん	16,21
デオドラント	3,21
デオドラント化粧品	16,21,26,42,43
デオドラント製品	51
デカラライザー	15
デキストラナーゼ酵素	17
てんか粉	3,4,51,53
天然高分子	24
天然香料	26,38
天然色素	11,25,36
天然保湿因子	24,34

と

トウキ	17
動植物性油脂	23
頭髮用化粧品	4
糖類	24
特殊用途化粧品	4
トップコート	12
ドデシル硫酸ナトリウム	17
トリートメント機能	13
トリートメント成分	13

な

ナイロン	24,35,37
------------	----------

に

にきび用化粧品	28
二酸化炭素	17
二酸化チタン	10,35,37,41
ニトロセルロース	12,24
日本化粧品工業連合会	3,30,53
乳液	8,9,18,23
乳化剤	9
乳酸	29,45,47
入浴剤	17
尿素	24,34
尿素クリーム	3

ね

ネイルエナメル	12,19,24,25,35,36
ネイルエナメルリムーバー	12
ネイルラッカー	12
ネガティブリスト	14
粘結剤	17

は

パーマ1剤	27
パーマ剤	14,20
パーマネント・ウェーブ用剤	3,14,20,27,51
パール剤	10,11,19,25,26,37
配合原料	23
パウダー	10,11,16,19,35
パウダースプレー	16
白色顔料	10,19,25,37
バスオイル	17
バスソルト	17
肌荒れ防止剤	28
パック	8,18,24,35
パッチテスト	49

発泡剤	17
パブルバス	17
歯磨き	4,17,21,35
歯磨き剤	17,21
パラフェノールスルホン酸亜鉛	29,47
半永久染毛料	14,15,20,27
半永久染毛剤	49
半合成高分子	24
ハンドソープ	16,21,23

ひ

非イオン界面活性剤	12
皮脂分泌抑制剤	15,28,29
ビタミン	28,29
ビタミンB6	29
ビタミン剤	3
美白	3,8,9,18,29,52
美白化粧品	9,18
美白剤	9,18,28,46
美白用	8
皮膚刺激性	23
皮膚生理作用	9
皮膚用途化粧品	4
皮膜形成高分子	12,18,19,24,25,35
皮膜性高分子	24
日焼け止め用化粧品	9
ヒューメクタント	23
美容液	8,9,18
ピリドキシン	29
品質保持原料	23

ふ

ファンデーション	9,10,11,19
フェースパウダー	10
フォームタイプ	9
ふきとり化粧水	8
賦形剤	24,35
賦香剤	21
フッ化ナトリウム	17
フッ素剤	21
ブラッシャー	11
フレグランス	25,36
フレグランス化粧品	17,21
粉体高分子	7,10,18,19,24,35,37

へ

ヘアオイル	13
ヘアカラー	14,20,27,49

ヘアケア化粧品	4,12,20
ヘアコンディショナー	13
ヘアスタイリング剤	13
ヘアスタイリングジェル	13
ヘアスプレー	13
ヘアトリートメント	13,20
ヘアフォーム	13
ヘアブリーチ	15
ヘアマニキュア	15
ヘアムース	13
ヘアライトナー	15
ヘアリキッド	13
ヘアリンス	12,20
ヘアワックス	13
ベースコート	12
ペースト状成分	11
ベースメイクアップ化粧品	10,19
紅花	25
ベビーパウダー	51
ベンガラ	25,37
ベンジルアルコール	27,46
ペンシルタイプ	11

ほ

ポイントメイクアップ化粧品	11,19
芳香化粧品	17
防腐剤	26,42
頬紅	11,19
保護化粧品	7,9,18
保護用クリーム	9,18
保護用乳液	9,18
保湿効果	8,17
保湿剤	23
保湿成分	8,9,10,18,19,23,24,28,34,35
保湿用	8
ポジティブリスト	14
ボディケア化粧品	16,21
ボディシャンプー	16,21,23
ボディソープ	16
ホホバ油	23
ポマード	13
ポリエチレン粉末	24
ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12
ポリビニルアルコール	24
ポリビニルピロリドン	24,35
ポリマー	24
ホルモン	28
ホワイティング効果	8,18

ま

マイカ	24,35,37
マスカラ	11,19
マッサージクリーム	8
マニキュア	12
眉墨	11

み

ミツロウ	23
ミョウバン	29,47

む

無機塩類	17
無機顔料	11,19,24,25,35,37
無機高分子	10,16,19,21,24,35
ムコ多糖類	24
無水ケイ酸	17,35,37

め

メイクアップ化粧品	4,8,10,11,18,19,25,35
メイクアップ製品	25
メイク落とし	7,8
メラニン	9,15,18,20,27,28,45,46,54

も

モイスチャークリーム	9,18
モイスチャーローション	9,18
モイスチャライザー	23

や

薬機法	3,4,12,14,15,30,51,52
薬剤原料	23
薬用化粧品	3,4,18,28,52,53
薬用シャンプー	12
薬用石けん	53
薬用洗浄剤	16
薬効成分	17

ゆ

有機顔料	25,37
有機合成色素	11,25,36
有機酸	29
有効成分	3,12,15,28,29,46,47,53
油性液状成分	11
油性成分	9,10,11,13,18,19,20,23,28,31

よ

陽イオン系	20,32
-------------	-------

陽イオン性界面活性剤	12
陽イオン性高分子物質	12
溶剤	16,25,36,49
養毛剤	4,15,28,51,53
養毛料	20
葉緑素	25
浴用剤	3,16,17,21,46,52
浴用石けん	16,21,23

ら

ラウリルジメチルアミンオキシド	12
ラメ剤	26,37

り

リップカラー	11
リップスティック	11
硫酸亜鉛	29,47
硫酸アルミニウムカリウム	29,47
硫酸ナトリウム	17
両性界面活性剤	12
リンス	12,20
リンスインシャンプー	12
リンス機能	13
リンス効果	12
リンス成分	13

れ

レーキ	25
-----------	----

わ

ワセリン	23
ワックス	11

初 版 2007年 1月 22日
改 訂 版 2008年 3月 14日
第 三 版 2009年 3月 31日
改訂第四版 2011年 11月 30日
改訂第五版 2012年 9月 4日
改訂第六版 2019年 11月 22日

独立行政法人 製品評価技術基盤機構
化学物質管理センター

<https://www.nite.go.jp/chem/index.html>
〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10
tel：03-3481-1977 fax：03-3481-2900
E-mail：chem_information@nite.go.jp

本書に掲載されている会社名、商品名、製品名などは一般に各社の登録商標または商標です。
本書のすべての内容は、著作権法により保護を受けております。著作権者および出版権者の文章
による許諾を得ずに本書の内容の一部あるいは全部を複写、転載することは固くお断りします。

©National Institute of Technology and Evaluation.
All Rights Reserved.

